



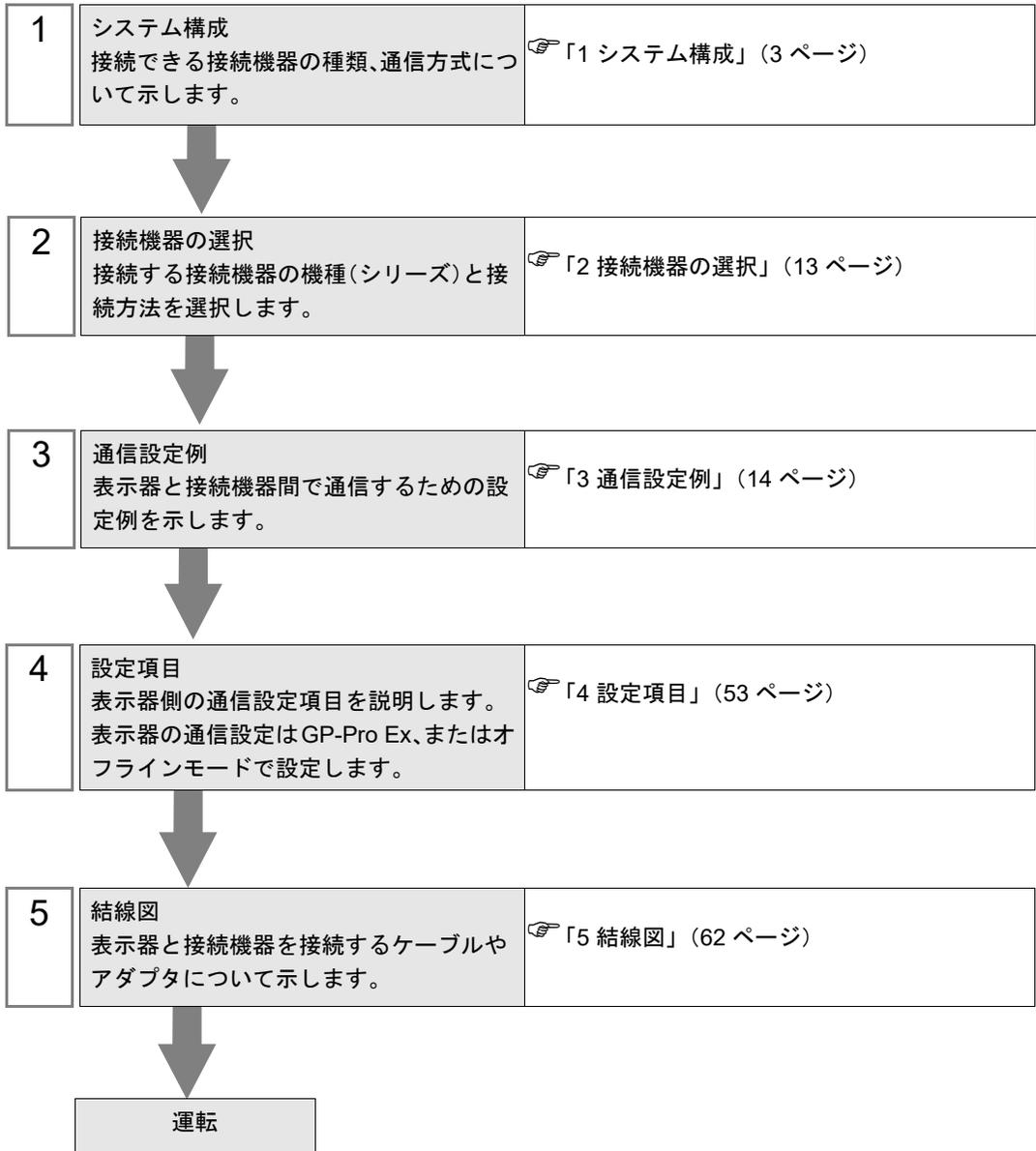
Q/QnA シリアル コミュニケーションドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択.....	13
3	通信設定例.....	14
4	設定項目.....	53
5	結線図.....	62
6	使用可能なデバイスアドレス範囲.....	98
7	デバイスコードとアドレスコード.....	109
8	エラーメッセージ.....	118

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

表示器と三菱電機（株）製接続機器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	通信設定例	結線図
MELSEC Q	Q02CPU Q02HCPU Q06HCPU Q12HCPU Q25HCPU Q00JCPU Q00CPU Q01CPU Q02UCPU Q03UDCPU Q04UDHCPU Q06UDHCPU	QJ71C24 QJ71C24-R2 QJ71C24N QJ71C24N-R2	RS232C	設定例 3 (20 ページ)	結線図 1 (62 ページ)
		QJ71C24 QJ71C24N QJ71C24N-R4	RS422/485 (4 線式)	設定例 4 (23 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 6 (29 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
	Q00UJCPU Q00UCPU Q01UCPU Q10UDHCPU Q13UDHCPU Q20UDHCPU Q26UDHCPU	QJ71C24N QJ71C24N-R2	RS232C	設定例 3 (20 ページ)	結線図 1 (62 ページ)
		QJ71C24N QJ71C24N-R4	RS422/485 (4 線式)	設定例 4 (23 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 6 (29 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
	Q03UDECPU Q04UDEHCPU Q06UDEHCPU Q10UDEHCPU Q13UDEHCPU Q20UDEHCPU Q26UDEHCPU Q03UDVCPU Q04UDVCPU Q06UDVCPU Q13UDVCPU Q26UDVCPU	QJ71C24N*1 QJ71C24N-R2*1	RS232C	設定例 3 (20 ページ)	結線図 1 (62 ページ)
		QJ71C24N*1 QJ71C24N-R4*1	RS422/485 (4 線式)	設定例 4 (23 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 6 (29 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
	Q00CPU Q01CPU Q00UJCPU Q00UCPU Q01UCPU Q02UCPU*2	CPU 上の RS232C コネクタ	RS232C	設定例 5 (26 ページ)	結線図 3 (72 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	通信設定例	結線図
MELSEC QnA	Q2ASCPU Q2ASCPU-S1 Q2ASHCPU Q2ASHCPU-S1	A1SJ71QC24 A1SJ71QC24N A1SJ71QC24-R2 A1SJ71QC24N-R2	RS232C	設定例 1 (14 ページ)	結線図 1 (62 ページ)
		A1SJ71QC24 A1SJ71QC24N	RS422/485 (4 線式)	設定例 2 (17 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 7 (32 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
MELSEC QnA	Q2ACPU Q2ACPU-S1 Q3ACPU Q4ACPU Q4ARCPU	AJ71QC24 AJ71QC24N AJ71QC24-R2 AJ71QC24N-R2	RS232C	設定例 1 (14 ページ)	結線図 4 (73 ページ)
		AJ71QC24 AJ71QC24N	RS422/485 (4 線式)	設定例 2 (17 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 7 (32 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
		AJ71QC24-R4 AJ71QC24N-R4	RS422/485 (4 線式) (CH1 使用時)	設定例 2 (17 ページ)	結線図 5 (75 ページ)
			RS422/485 (4 線式) (CH2 使用時)	設定例 2 (17 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) (CH2 使用時) マルチリンク	設定例 7 (32 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
MELSEC L	L02CPU L26CPU-BT	LJ71C24 LJ71C24-R2	RS232C	設定例 3 (20 ページ)	結線図 1 (62 ページ)
		LJ71C24	RS422/485 (4 線式) (CH2 使用時)	設定例 4 (23 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) (CH2 使用時) マルチリンク	設定例 6 (29 ページ)	結線図 6 (81 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	通信設定例	結線図				
MELSEC iQ-R	R00CPU R01CPU R02CPU R04CPU R08CPU R16CPU R32CPU R120CPU	RJ71C24 RJ71C24-R2	RS232C	設定例 8 (35 ページ)	結線図 1 (62 ページ)				
	R04ENCPU R08ENCPU R16ENCPU R32ENCPU R120ENCPU					RS422/485 (4 線式)	設定例 9 (38 ページ)	結線図 2 (64 ページ)	
	R08PCPU R16PCPU R32PCPU R120PCPU	RJ71C24 RJ71C24-R4		RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 9 (38 ページ)	結線図 6 (81 ページ)			
	R08SFCPU R16SFCPU R32SFCPU R120SFCPU								
	R08PSFCPU R16PSFCPU R32PSFCPU R120PSFCPU						RS422/485 (2 線式)	設定例 12 (47 ページ)	結線図 8 (91 ページ)

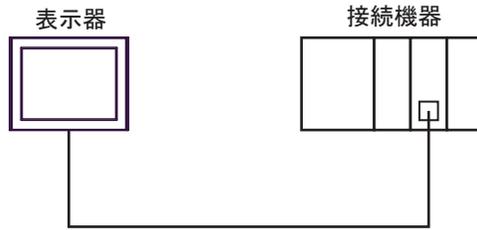
シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	通信設定例	結線図
MELSEC iQ-F	FX5UCPU	FX5-232-BD FX5-232ADP	RS232C	設定例 10 (41 ページ)	結線図 7 (89 ページ)
		CPU 上の RS422/485 コネクタ FX5-485-BD FX5-485ADP	RS422/485 (4 線式)	設定例 11 (44 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 11 (44 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
			RS422/485 (2 線式)	設定例 13 (50 ページ)	結線図 8 (91 ページ)
	FX5UCCPU	FX5-232ADP	RS232C	設定例 10 (41 ページ)	結線図 7 (89 ページ)
		CPU 上の RS422/485 コネクタ FX5-485ADP	RS422/485 (4 線式)	設定例 11 (44 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 11 (44 ページ)	結線図 6 (81 ページ)
			RS422/485 (2 線式)	設定例 13 (50 ページ)	結線図 8 (91 ページ)
	FX5UJCPU	FX5-232-BD FX5-232ADP	RS232C	設定例 10 (41 ページ)	結線図 7 (89 ページ)
		FX5-485-BD FX5-485ADP	RS422/485 (4 線式)	設定例 11 (44 ページ)	結線図 2 (64 ページ)
			RS422/485 (4 線式) マルチリンク	設定例 11 (44 ページ)	結線図 6 (81 ページ)

*1 シリアル No. の上 5 桁が "10042" 未満のユニットは QnUDECPU/QnUDEHCPU と接続できません。

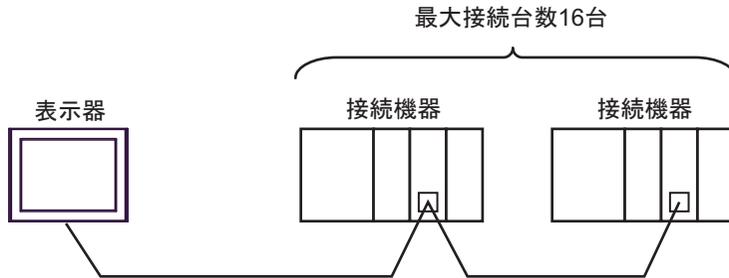
*2 シリアル No. の上 5 桁が "10102" 以降のユニットでバージョンが 8.76E 以降の GX Developer を使用する場合にサポートします。

■ 接続構成

- 1:1 接続

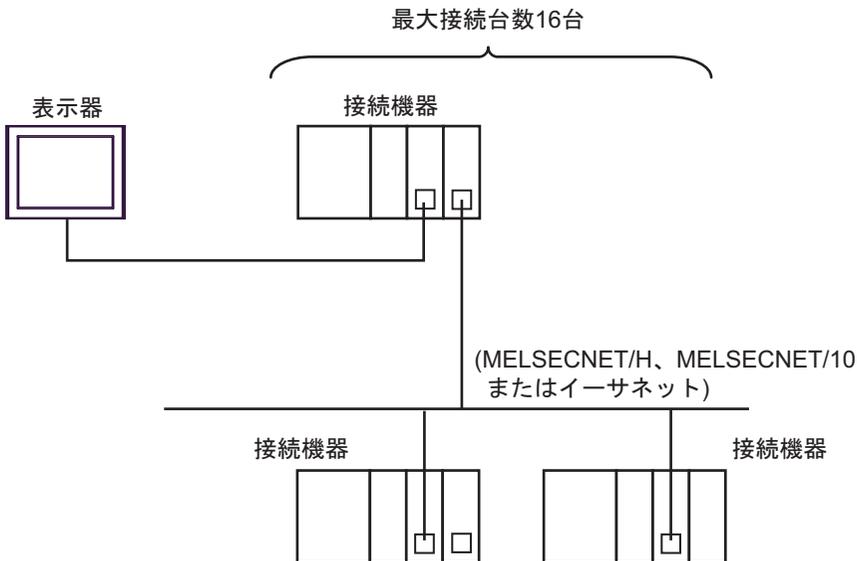


- 1:n 接続



- 1:n 接続 (ネットワークを経由する場合)

MELSECNET/H、MELSECNET/10、Ethernet、Q シリーズ C24 ユニットを経由した他局へのアクセスが可能です。ただし、Q00CPU、Q01CPU 上の RS232C コネクタを使用する場合は、自局へのアクセスのみ可能です。

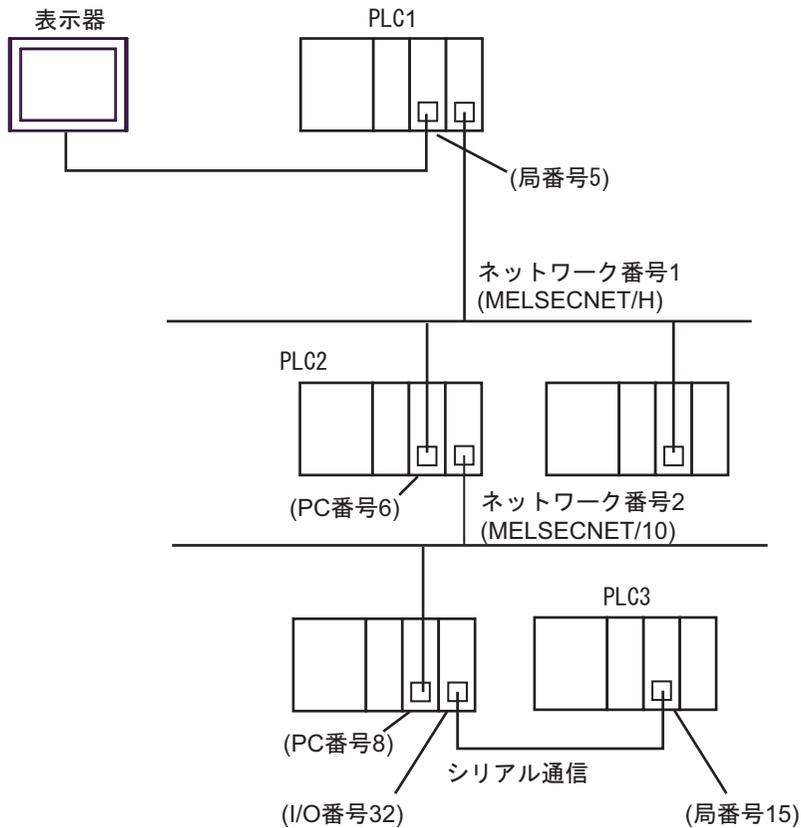


MEMO

- ネットワークを経由して通信する場合、タイムアウトの設定は中継局の応答監視時間よりも大きな値を設定してください。
- iQ-F シリーズはネットワークを経由する接続に対応していません。

ネットワークを経由する場合の設定例を以下に示します。設定項目の詳細は「設定項目」で確認してください。

☞ 「4 設定項目」(53 ページ)

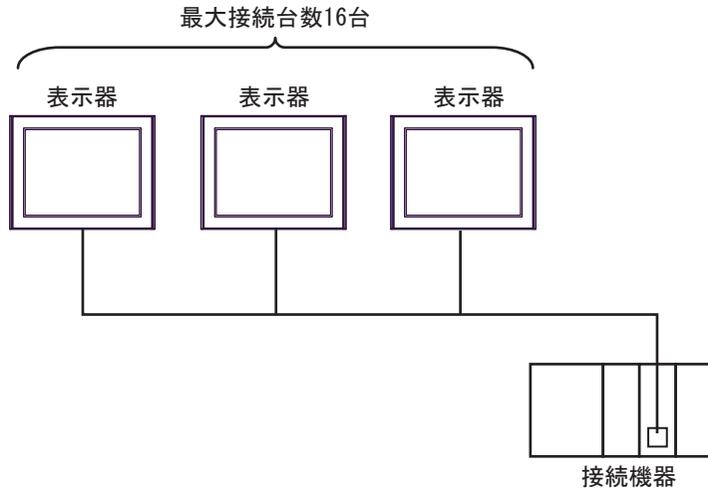


[個別機器設定] ダイアログボックス

アクセス先の 接続機器	局番号 ^{*1}	ネットワーク 番号	PC 番号	要求先ユニッ トの I/O 番号	要求先ユニッ トの局番号
PLC1	5	0	255	1023	0
PLC2	5	1	6	1023	0
PLC3	5	2	8	32	15

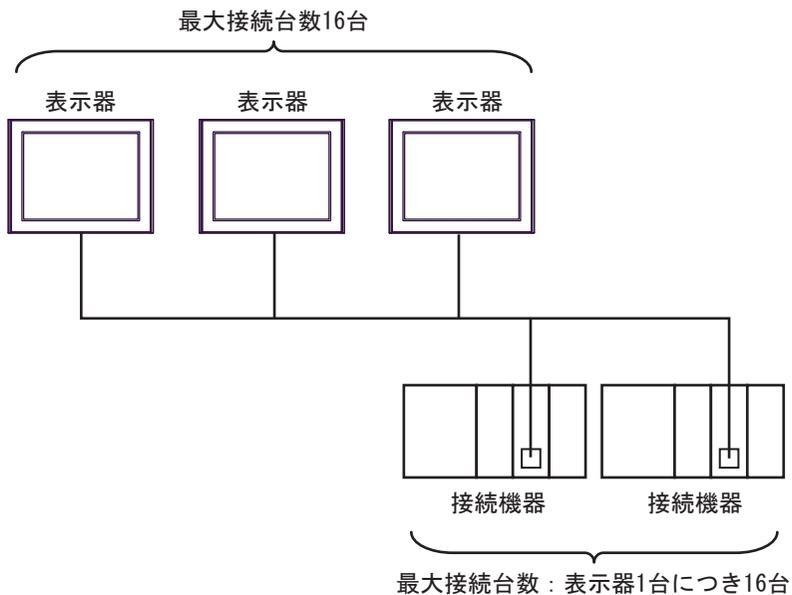
*1 中継局 (PLC1) の局番号を設定します。

- n : 1 接続 (マルチリンク接続)

**MEMO**

- 最大接続数は 16 台ですが、接続する表示器を増やすと応答が遅くなるため、4 台までの接続を推奨します。

- n : m 接続 (マルチリンク接続)

**MEMO**

- 最大接続数は 16 台ですが、接続する表示器を増やすと応答が遅くなるため、4 台までの接続を推奨します。

■ IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

シリーズ	使用可能ポート		
	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)
PS-2000B	COM1 ^{*1} 、COM2、COM3 ^{*1} 、COM4	-	-
PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD	COM1、COM2 ^{*1*2}	COM2 ^{*1*2}	COM2 ^{*1*2}
PS-3650A(T41 機種)、PS-3651A(T41 機種)	COM1 ^{*1}	-	-
PS-3650A(T42 機種)、PS-3651A(T42 機種)	COM1 ^{*1*2} 、COM2	COM1 ^{*1*2}	COM1 ^{*1*2}
PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A	COM1 ^{*1} 、COM2 ^{*1} 、COM3 ^{*2} 、COM4	COM3 ^{*2}	COM3 ^{*2}
PS-3711A	COM1 ^{*1} 、COM2 ^{*2}	COM2 ^{*2}	COM2 ^{*2}
PS4000 ^{*3}	COM1、COM2	-	-
PL3000	COM1 ^{*1*2} 、COM2 ^{*1} 、COM3、COM4	COM1 ^{*1*2}	COM1 ^{*1*2}
PE-4000B Atom N270	COM1、COM2	-	-
PE-4000B Atom N2600	COM1、COM2	COM3 ^{*4} 、COM4 ^{*4} 、COM5 ^{*4} 、COM6 ^{*4}	COM3 ^{*4} 、COM4 ^{*4} 、COM5 ^{*4} 、COM6 ^{*4}
PS5000 (スリムパネルタイプ Core i3 モデル) ^{*5 *6}	COM1、COM2 ^{*4}	COM2 ^{*4}	COM2 ^{*4}
PS5000 (スリムパネルタイプ Atom モデル) ^{*5 *6}	COM1、COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}
PS5000 (耐環境パネルタイプ) ^{*8}	COM1	-	-
PS5000 (モジュラータイプ PFXPU/PFXPP) ^{*5 *6} PS5000 (モジュラータイプ PFXPL2B5-6)	COM1 ^{*7}	COM1 ^{*7}	COM1 ^{*7}
PS5000 (モジュラータイプ PFXPL2B1-4)	COM1、COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}
PS6000 (アドバンスドボックス) PS6000 (スタンダードボックス)	COM1 ^{*9}	*10	*10
PS6000 (ベーシックボックス)	COM1 ^{*9}	COM1 ^{*9}	COM1 ^{*9}

*1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

*2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

- *3 拡張スロットに搭載した COM ポートと接続機器を通信させる場合、通信方式は RS-232C のみサポートします。ただし、COM ポートの仕様上、ER(DTR/CTS) 制御はできません。接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、ピン番号 1、4、6、9 には何も接続しないでください。ピン配列は IPC のマニュアルを参照してください。
- *4 通信方式を BIOS で設定する必要があります。BIOS の詳細は IPC のマニュアルを参照してください。
- *5 RS-232C/422/485 インターフェイスモジュールと接続機器を通信させる場合、IPC(RS-232C) または PS5000(RS-422/485) の結線図を使用してください。ただし PFXZPBMPR42P2 をフロー制御なしの RS-422/485(4 線式) として使用する場合は 7.RTS+ と 8.CTS+、6.RTS- と 9.CTS- を接続してください。接続機器との接続で RS-422/485 通信を使用するときには通信速度を落として送信ウェイトを増やすことが必要な場合があります。
- *6 RS-232C/422/485 インターフェイスモジュールで RS-422/485 通信を使用するにはディップスイッチの設定が必要です。サポート専用サイトの「よくある質問」(FAQ) を参照してください。
(<http://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1001.html>)

項目	FAQ ID
PFXZPBMPR42P2のRS422/485切り替え方法	FA263858
PFXZPBMPR42P2の終端抵抗設定	FA263974
PFXZPBMPR44P2のRS422/485切り替え方法	FA264087
PFXZPBMPR44P2の終端抵抗設定	FA264088

- *7 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。ディップスイッチの詳細は IPC のマニュアルを参照してください。ボックス Atom には RS-232C、RS-422/485 モードを設定するスイッチがありません。通信方式は BIOS で設定してください。
- *8 接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、表示器側のコネクタを M12 A コード 8 ピン (ソケット) に読み替えてください。ピン配列は結線図に記載している内容と同じです。M12 A コードのコネクタには PFXZPSCNM122 を使用してください。
- *9 本体上の COM1 以外に、オプションインターフェイス上の COM ポートを使用することもできます。
- *10 拡張スロットにオプションインターフェイスを取り付ける必要があります。

ディップスイッチの設定 (PL3000/PS3000 シリーズ)

RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF*1	予約 (常時 OFF)
2	OFF	通信方式 : RS-232C
3	OFF	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡 : しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡 : しない

ディップスイッチ	設定値	設定内容
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

*1 PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする必要があります。

RS-422/485 (4 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約 (常時 OFF)
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

RS-422/485 (2 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約 (常時 OFF)
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	ON	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：する
8	ON	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：する
9	ON	RS(RTS) 自動制御モード：有効
10	ON	

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1～4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「三菱電機(株)」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種(シリーズ)と接続方法を選択します。「Q/QnA シリアルコミュニケーション」を選択します。 「Q/QnA シリアルコミュニケーション」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」(3 ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス(メモリ)を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「本体設定(システムエリア設定)の設定ガイド」 参照：保守/トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器 追加
1	PLC1	シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム	+

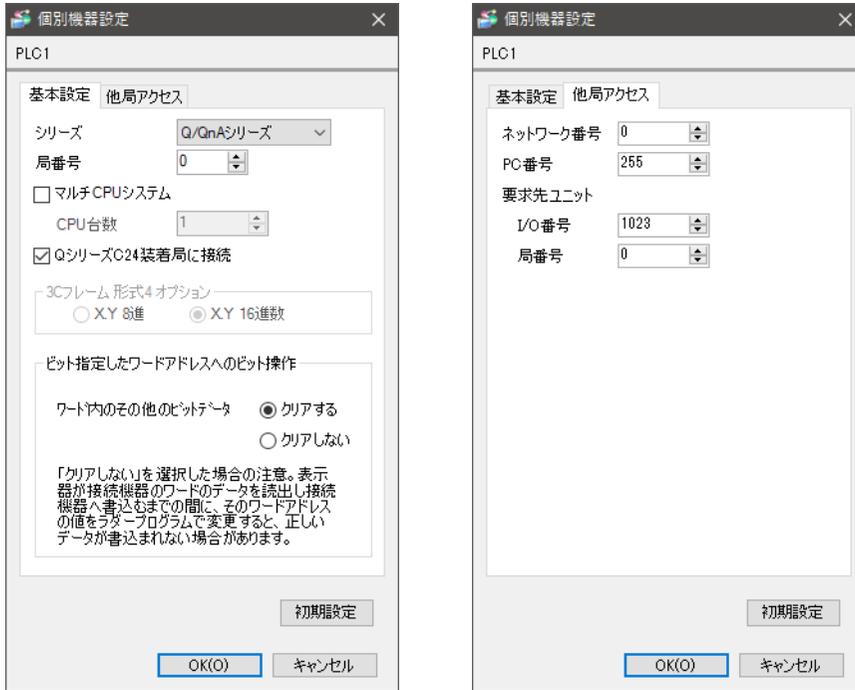
MEMO

- A1SJ71QC24N、A1SJ71QC24N-R2、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R2 を使用する場合、「通信速度」は 115200 まで設定可能です。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 重要事項

A1SJ71QC24N、A1SJ71QC24N-R2、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R2 で2つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

■ 接続機器の設定

通信設定は、計算機リンクユニット前面のスイッチを使用して以下の設定を行います。

ディップ スイッチ	設定	設定内容
SW1	OFF	動作設定=独立動作
SW2	ON	データ長=8ビット
SW3	ON	パリティの有無=有
SW4	OFF	パリティ=奇数パリティ
SW5	OFF	ストップビット=1ビット
SW6	ON	サムチェック=有
SW7	ON	RUN 中書き込み=可
SW8	ON	設定変更可・不可=可
SW9	OFF	伝送速度=19200
SW10	ON	
SW11	ON	
SW12	OFF	

MEMO

- A1SJ71QC24N、A1SJ71QC24N-R2、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R2 を使用する場合、「通信速度」は 115200 まで設定可能です。

- 局番設定スイッチ

設定スイッチ	設定
×10	0
×1	0

- モード設定スイッチ

設定スイッチ	設定
MODE (CH1)	5 ^{*1}
MODE (CH2)	5 ^{*1}

*1 使用する[形式]にあわせて設定してください。

◆ 重要事項

A1SJ71QC24N、A1SJ71QC24N-R2、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R2 で2つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1 | [接続機器変更](#)

概要
 メーカー シリーズ ポート
 文字列データモード [変更](#)

通信設定
 通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)
 通信速度
 データ長 7 8
 パリティ なし 偶数 奇数
 ストップビット 1 2
 フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF
 タイムアウト (sec)
 リトライ
 送信ウェイト (ms)
 形式

RI / VCC RI VCC
RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定
 接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器 追加
1	PLC1	シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム	<input type="button" value="追加"/>

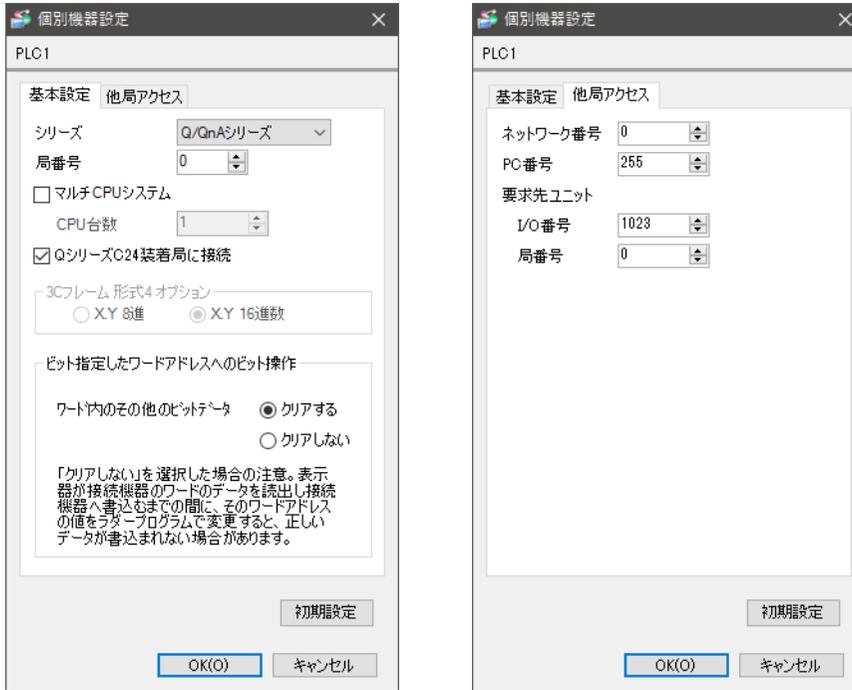
MEMO

- A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 を使用する場合、「通信速度」は 115200 まで設定可能です。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 重要事項

A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

■ 接続機器の設定

通信設定は、計算機リンクユニット前面のスイッチを使用して以下の設定を行います。

ディップ スイッチ	設定	設定内容
SW1	OFF	動作設定=独立動作
SW2	ON	データ長=8ビット
SW3	ON	パリティの有無=有
SW4	OFF	パリティ=奇数パリティ
SW5	OFF	ストップビット=1ビット
SW6	ON	サムチェック=有
SW7	ON	RUN 中書き込み=可
SW8	ON	設定変更可・不可=可
SW9	OFF	伝送速度=19200
SW10	ON	
SW11	ON	
SW12	OFF	

MEMO

- A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 を使用する場合、「通信速度」は 115200 まで設定可能です。

- 局番設定スイッチ

設定スイッチ	設定
×10	0
×1	0

- モード設定スイッチ

設定スイッチ	設定
MODE (CH1)	5 ^{*1}
MODE (CH2)	5 ^{*1}

*1 使用する[形式]にあわせて設定してください。

◆ 重要事項

A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 で2つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器 1 | [接続機器変更](#)

概要
 メーカー シリーズ ポート
 文字列データモード [変更](#)

通信設定
 通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)
 通信速度
 データ長 7 8
 パリティ なし 偶数 奇数
 ストップビット 1 2
 フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF
 タイムアウト (sec)
 リトライ
 送信ウェイト (ms)
 形式

RI / VCC RI VCC
RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

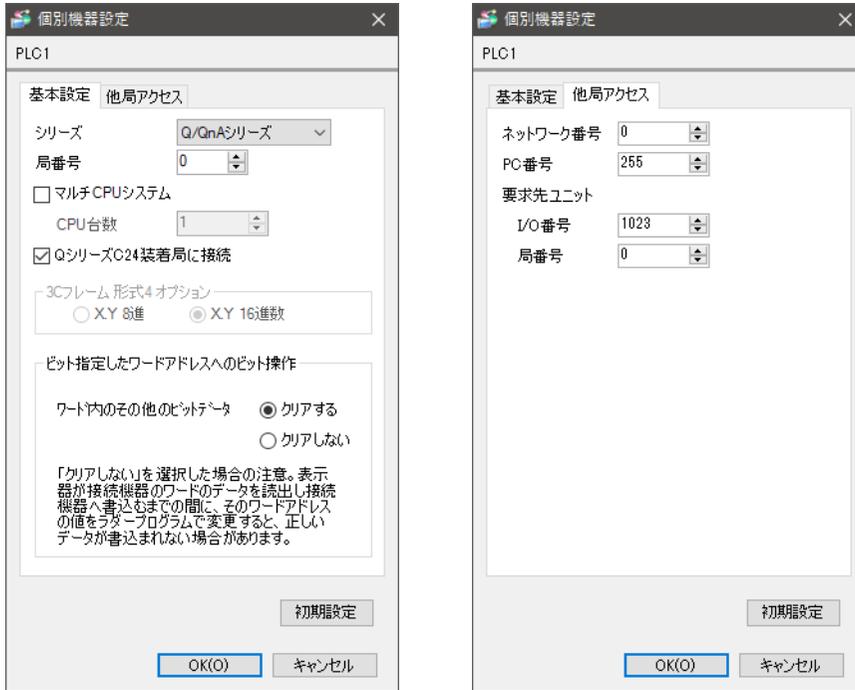
機器別設定
 接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器 追加
1	PLC1	シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム	<input type="button" value="追加"/>

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 重要事項

QJ71C24、QJ71C24-R2 で2つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が115200 以内になるように設定してください。

■ 接続機器の設定

通信設定は、三菱電機㈱製 GPP 機能ソフトウェアより下記の手順で行います。

- (1) 「パラメータ」の中から、[PC パラメータ] をダブルクリックし、[I/O 割付設定タブ] を選択します。
- (2) [種別] をクリックし、[インテリ] を選択します。
- (3) [スイッチ設定] をクリックし、下記の設定を行います。

設定スイッチ	設定値	設定内容
スイッチ 1	07E6	伝送速度 = 19200 データ長 = 8 パリティの有無 = 有 パリティ = 奇数パリティ ストップビット = 1 サムチェック = 有
スイッチ 2	0005*1	モード = 形式 5
スイッチ 5	0000	局番 = 0

*1 使用する [形式] にあわせて設定してください。

MEMO

- 設定内容の詳細については、接続機器側のマニュアルを参照してください。

◆ 重要事項

QJ71C24、QJ71C24-R2 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1, CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器 1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

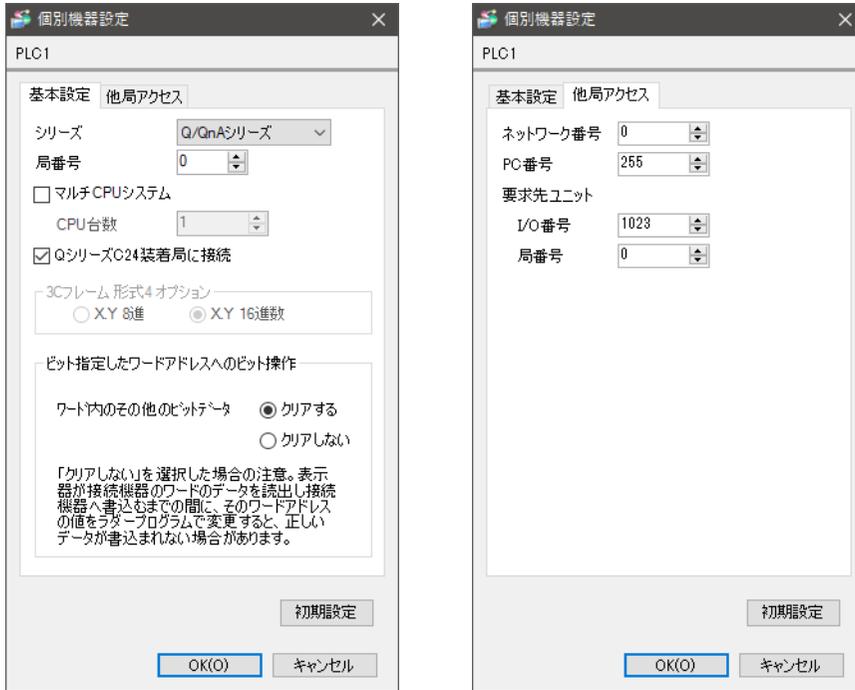
接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム	

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 重要事項

QJ71C24 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

■ 接続機器の設定

通信設定は、三菱電機㈱製 GPP 機能ソフトウェアより下記の手順で行います。

- (1) 「パラメータ」の中から、[PC パラメータ] をダブルクリックし、[I/O 割付設定タブ] を選択します。
- (2) [種別] をクリックし、[インテリ] を選択します。
- (3) [スイッチ設定] をクリックし、下記の設定を行います。

設定スイッチ	設定値	設定内容
スイッチ 3	07E6	伝送速度 = 19200 データ長 = 8 パリティの有無 = 有 パリティ = 奇数パリティ ストップビット = 1 サムチェック = 有
スイッチ 4	0005*1	モード = 形式 5
スイッチ 5	0000	局番 = 0

*1 使用する [形式] にあわせて設定してください。

MEMO

- 設定内容の詳細については、接続機器側のマニュアルを参照してください。

◆ 重要事項

QJ71C24 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1, CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1 |

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

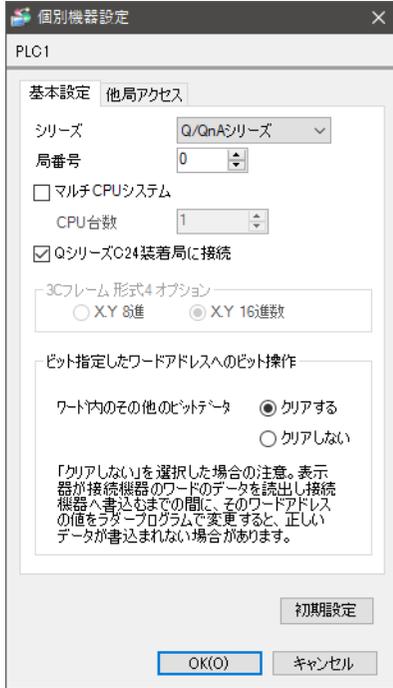
接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器 追加
1	PLC1	シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム	<input type="button" value="追加"/>

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

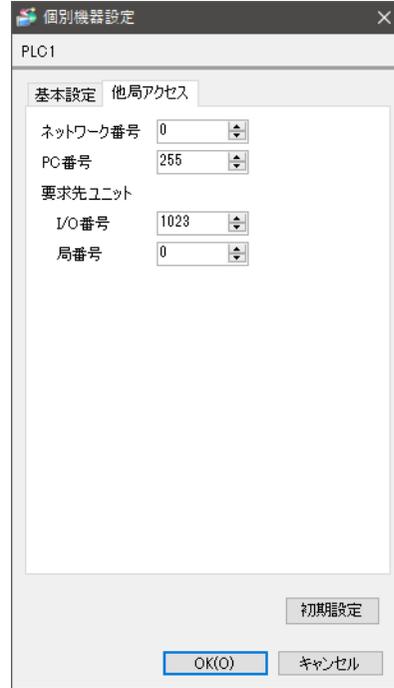
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

通信設定は、三菱電機㈱製 GPP 機能ソフトウェアより下記の手順で行います。

(1) 「パラメータ」の中から、[PC パラメータ]をダブルクリックし、[シリアルコミュニケーション設定]を選択します。

(2) 下記の設定を行います。

設定項目	設定
シリアルコミュニケーション機能を使用する ^{*1}	使用する
ボーレート	19.2Kbps
サムチェック	あり
伝送ウェイト時間	ウェイト無し
RUN 中書込み設定	許可する

*1 チェックボックスにチェックを入れると他の設定項目も設定可能になります。

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

The screenshot shows the '接続機器1' configuration window. The '概要' section includes fields for 'メーカー' (Mitsubishi Electric), 'シリーズ' (Q/QnA シリアルコミュニケーション), and 'ポート' (COM1). The '通信設定' section has radio buttons for 'RS232C', 'RS422/485(2線式)', and 'RS422/485(4線式)'. Other settings include '通信速度' (19200), 'データ長' (8), 'パリティ' (奇数), 'ストップビット' (1), 'フロー制御' (ER(DTR/CTS)), 'タイムアウト' (3 sec), 'リトライ' (2), '送信ウェイト' (0 ms), and '形式' (QnA互換4Cフレーム:形式5). A note explains the RI/VCC selection for RS232C. The '機器別設定' section shows '接続可能台数' (16) and a table with one device: 'PLC1' with a note 'シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム'.

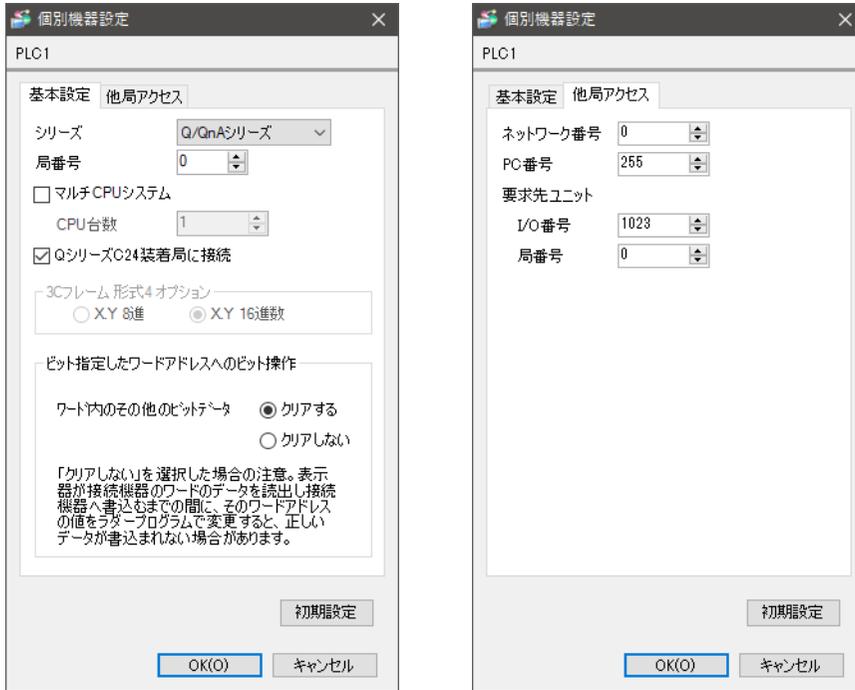
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 重要事項

QJ71C24 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

■ 接続機器の設定

通信設定は、三菱電機㈱製 GPP 機能ソフトウェアより下記の手順で行います。

- (1) す「パラメータ」の中から、[PC パラメータ] をダブルクリックし、[I/O 割付設定タブ] を選択します。
- (2) [種別] をクリックし、[インテリ] を選択します。
- (3) [スイッチ設定] をクリックし、下記の設定を行います。

設定スイッチ	設定値	設定内容
スイッチ 3	07E6	伝送速度 = 19200 データ長 = 8 パリティの有無 = 有 パリティ = 奇数パリティ ストップビット = 1 サムチェック = 有
スイッチ 4	0005*1	モード = 形式 5
スイッチ 5	0000	局番 = 0

*1 使用する [形式] にあわせて設定してください。

MEMO

- 設定内容の詳細については、接続機器側のマニュアルを参照してください。

◆ 重要事項

QJ71C24 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1, CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

3.7 設定例 7

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	FLC1	シリーズ=Q/QnAシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム	

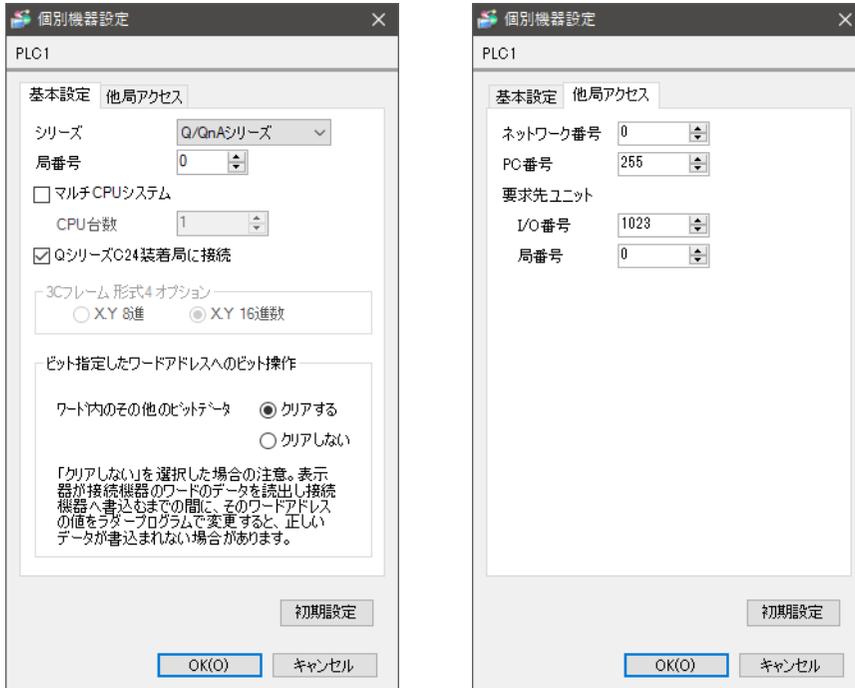
MEMO

- A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 を使用する場合、「通信速度」は 115200 まで設定可能です。
- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 重要事項

A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 で 2 つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

■ 接続機器の設定

通信設定は、計算機リンクユニット前面のスイッチを使用して以下の設定を行います。

ディップ スイッチ	設定	設定内容
SW1	OFF	動作設定=独立動作
SW2	ON	データ長=8ビット
SW3	ON	パリティの有無=有
SW4	OFF	パリティ=奇数パリティ
SW5	OFF	ストップビット=1ビット
SW6	ON	サムチェック=有
SW7	ON	RUN 中書き込み=可
SW8	ON	設定変更可・不可=可
SW9	OFF	伝送速度=19200
SW10	ON	
SW11	ON	
SW12	OFF	

MEMO

- A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 を使用する場合、「通信速度」は 115200 まで設定可能です。

- 局番設定スイッチ

設定スイッチ	設定
×10	0
×1	0

- モード設定スイッチ

設定スイッチ	設定
MODE (CH1)	5 ^{*1}
MODE (CH2)	5 ^{*1}

*1 使用する[形式]にあわせて設定してください。

◆ 重要事項

A1SJ71QC24N、AJ71QC24N、AJ71QC24N-R4 で2つのインターフェースを使用する場合は、CH1,CH2 の通信速度の合計が 115200 以内になるよう設定してください。

3.8 設定例 8

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	FLC1	シリーズ=iQ-Rシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム=	

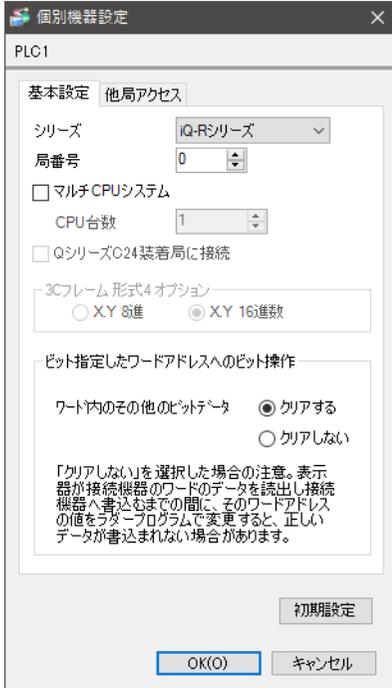
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

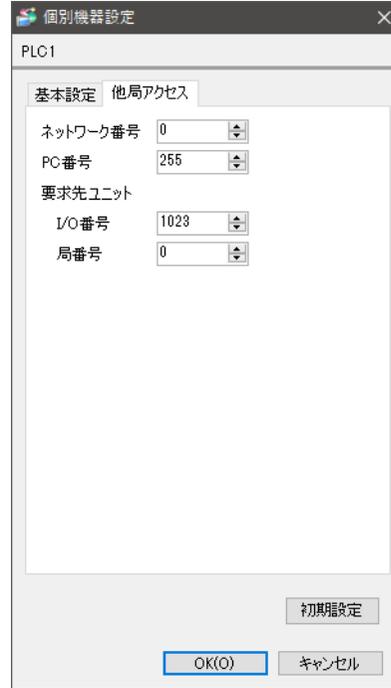
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はエンジニアリングソフトウェア (MELSOFT GX Works3) で行います。
詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) エンジニアリングソフトウェアを起動します。
- (2) ツリービューの [パラメータ] から [ユニット情報] をクリックします。使用するリンク I/F の [ユニットパラメータ] をダブルクリックします。
- (3) 表示された [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウで以下の設定を行います。

• 基本設定

設定項目	設定値
プロトコル形式	MC プロトコル
データ長	8bit
パリティ	奇数
ストップビット	1bit
ボーレート	19200
サムチェック	付加する

• 固有設定

設定項目	設定値
伝文形式	形式 5

MEMO

- RJ71C24 を使用する場合は ch1 に設定してください。

3.9 設定例 9

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定
1	FLC1	シリーズ=iQ-Rシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム=

[間接機器追加](#)

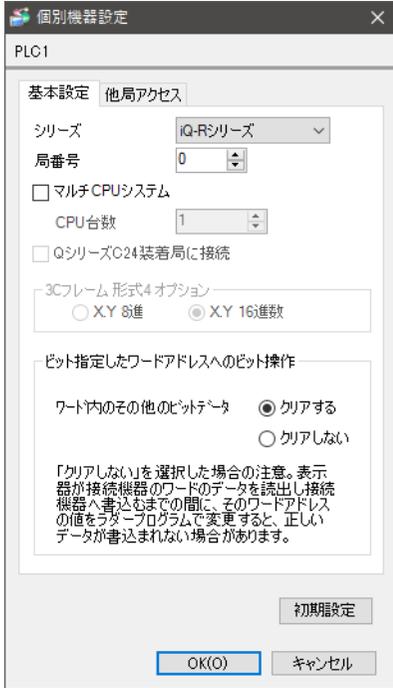
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

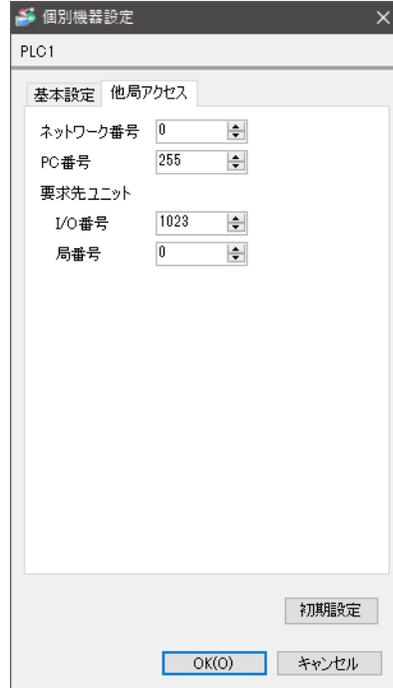
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はエンジニアリングソフトウェア (MELSOFT GX Works3) で行います。
詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) エンジニアリングソフトウェアを起動します。
- (2) ツリービューの [パラメータ] から [ユニット情報] をクリックします。使用するリンク I/F の [ユニットパラメータ] をダブルクリックします。
- (3) 表示された [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウで以下の設定を行います。

• 基本設定

設定項目	設定値
プロトコル形式	MC プロトコル
データ長	8bit
パリティ	奇数
ストップビット	1bit
ボーレート	19200
サムチェック	付加する

• 固有設定

設定項目	設定値
伝文形式	形式 5

MEMO

- RJ71C24 を使用する場合は ch2 に設定してください。

3.10 設定例 10

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	FLC1	シリーズ=iQ-Fシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム=	

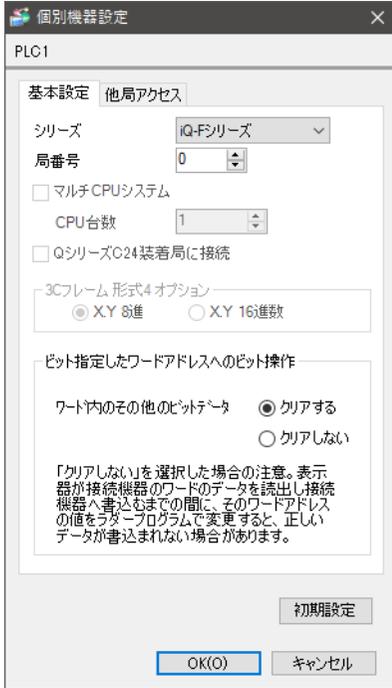
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

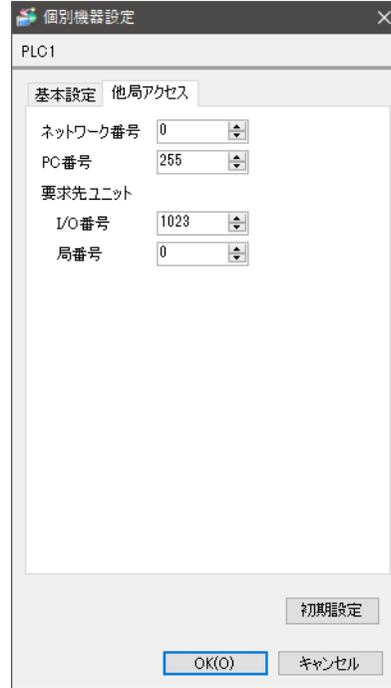
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はエンジニアリングソフトウェア (MELSOFT GX Works3) で行います。
詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) エンジニアリングソフトウェアを起動します。
- (2) ツリービューの [パラメータ] から [ユニット情報] をクリックします。使用するリンク I/F の [ユニットパラメータ] をダブルクリックします。
- (3) 表示された [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウで以下の設定を行います。

- 基本設定

設定項目	設定値
プロトコル形式	MC プロトコル
データ長	8bit
パリティ	奇数
ストップビット	1bit
ボーレート	19200
サムチェック	付加する

- 固有設定

設定項目	設定値
伝文形式	形式 5

3.11 設定例 11

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	FLC1	シリーズ=iQ-Fシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム=	

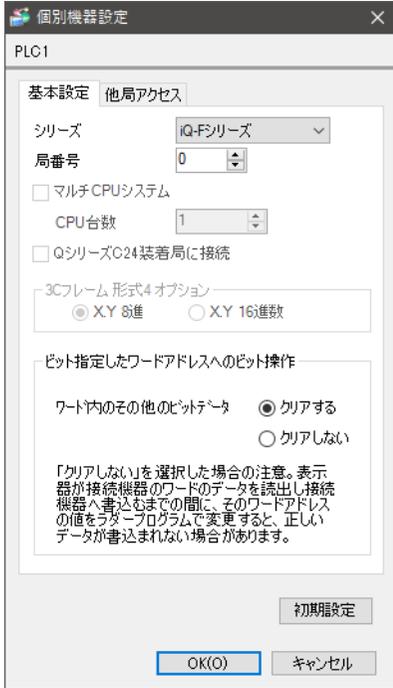
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

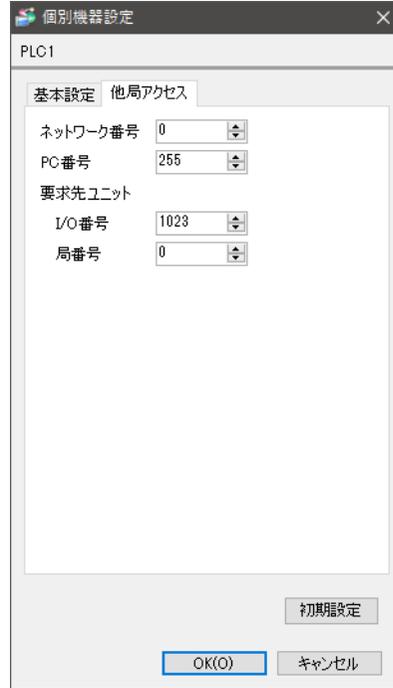
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はエンジニアリングソフトウェア (MELSOFT GX Works3) で行います。
詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) エンジニアリングソフトウェアを起動します。
- (2) ツリービューの [パラメータ] から使用する接続機器の [ユニットパラメータ] を展開し、[485 シリアルポート] をダブルクリックします。
- (3) 表示された [ユニットパラメータ 485 シリアルポート] ウィンドウで以下の設定を行います。

• 基本設定

設定項目	設定値
プロトコル形式	MC プロトコル
データ長	8bit
パリティ	奇数
ストップビット	1bit
ボーレート	19200
サムチェック	付加する

• 固有設定

設定項目	設定値
伝文形式	形式 5

3.12 設定例 12

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	FLC1	シリーズ=iQ-Rシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム=	

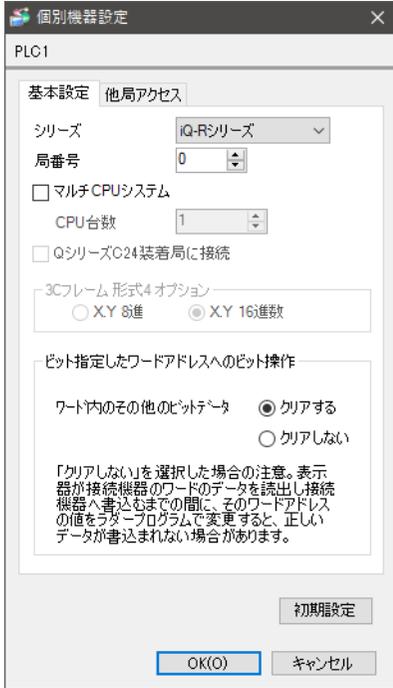
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はエンジニアリングソフトウェア (MELSOFT GX Works3) で行います。
詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) エンジニアリングソフトウェアを起動します。
- (2) ツリービューの [パラメータ] から [ユニット情報] をクリックします。使用するリンク I/F の [ユニットパラメータ] をダブルクリックします。
- (3) 表示された [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウで以下の設定を行います。

• 基本設定

設定項目	設定値
プロトコル形式	MC プロトコル
データ長	8bit
パリティ	奇数
ストップビット	1bit
ボーレート	19200
サムチェック	付加する

• 固有設定

設定項目	設定値
伝文形式	形式 5

MEMO

- RJ71C24 を使用する場合は ch2 に設定してください。

3.13 設定例 13

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

形式

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No	機器名	設定	間接機器追加
1	FLC1	シリーズ=iQ-Fシリーズ,局番号=0,マルチCPUシステム=0	

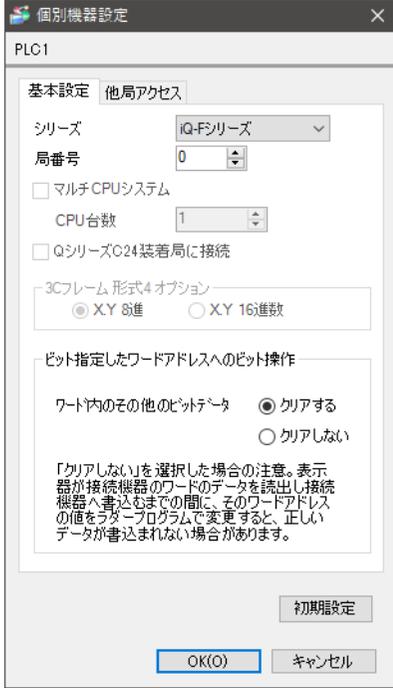
MEMO

- マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は [形式] で「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズQ24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

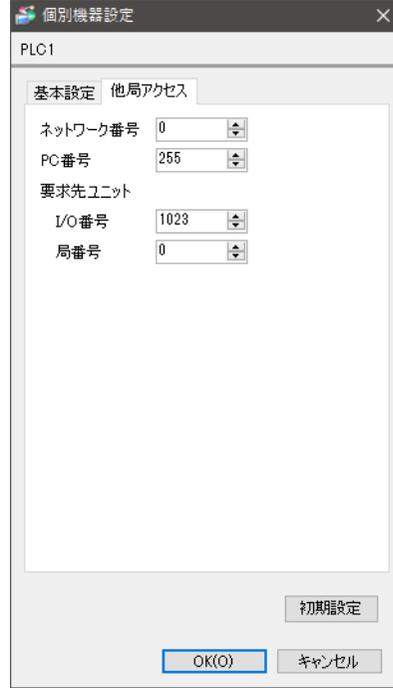
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書き込むまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はエンジニアリングソフトウェア (MELSOFT GX Works3) で行います。
詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) エンジニアリングソフトウェアを起動します。
- (2) ツリービューの [パラメータ] から使用する接続機器の [ユニットパラメータ] を展開し、[485 シリアルポート] をダブルクリックします。
- (3) 表示された [ユニットパラメータ 485 シリアルポート] ウィンドウで以下の設定を行います。

• 基本設定

設定項目	設定値
プロトコル形式	MC プロトコル
データ長	8bit
パリティ	奇数
ストップビット	1bit
ボーレート	19200
サムチェック	付加する

• 固有設定

設定項目	設定値
伝文形式	形式 5

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(14 ページ)

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1～127」で入力します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">MEMO</div> ネットワークを経由して通信する場合、タイムアウトの設定は中継局の応答監視時間よりも大きな値を設定してください。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0～255」で入力します。
形式	<p>使用する MELSEC コミュニケーションプロトコルの交信フレームを「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」または「QnA 互換 4C フレーム：形式 5」から選択します。</p> <p>MEMO</p> <p>マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。</p>
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

MEMO

- 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

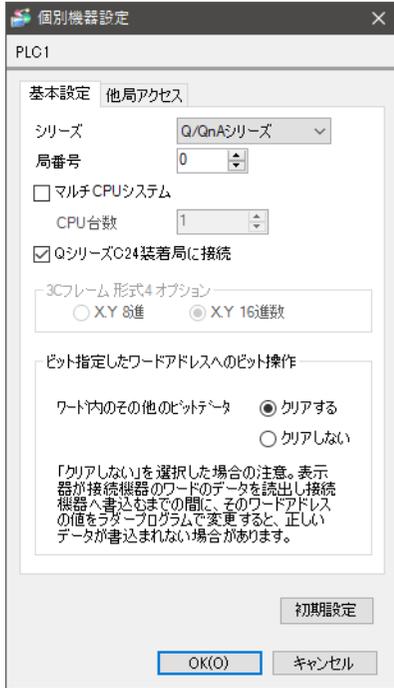
参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい (間接機器指定)」

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

- Q/QnA シリーズ、iQ-R シリーズ選択時



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズC24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

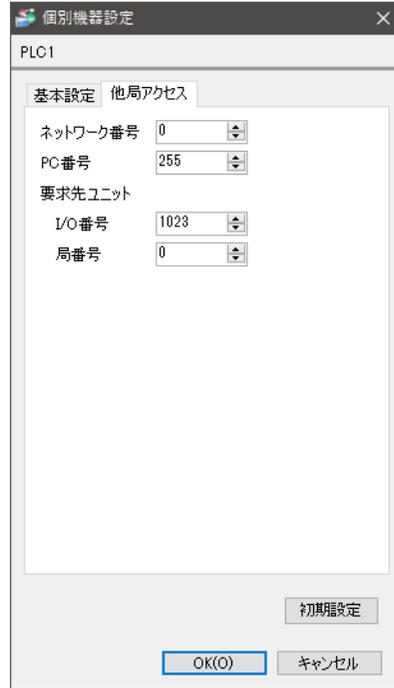
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書込みまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

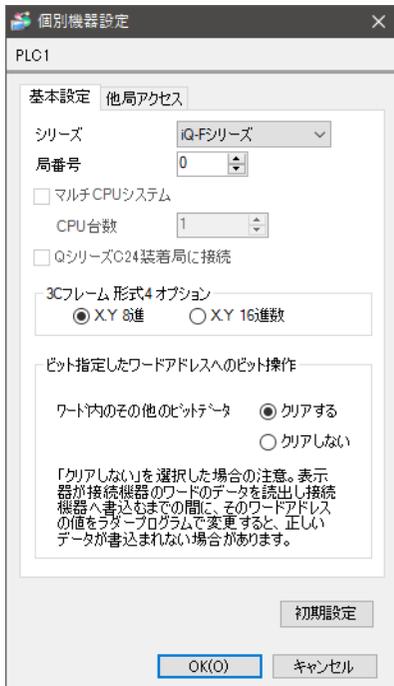
I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

- iQ-F シリーズ選択時



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

シリーズ

局番号

マルチCPUシステム

CPU台数

QシリーズC24装着局に接続

3Cフレーム形式4 オプション

XY 8進 XY 16進数

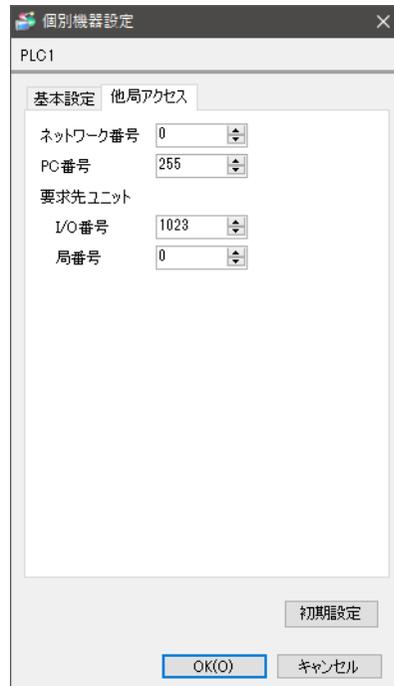
ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書込みまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス

ネットワーク番号

PC番号

要求先ユニット

I/O番号

局番号

初期設定

OK(O) キャンセル

設定項目	設定内容
シリーズ	使用する接続機器のシリーズを選択します。
局番号	表示器と直接接続する接続機器の局番号を「0～31」で入力します。
マルチ CPU システム	マルチ CPU システムを使用する場合にチェックを入れます。
CPU 台数	マルチ CPU システムで使用する CPU の台数を「1～4」で入力します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> • [CPU 台数] は [マルチ CPU システム] にチェックを入れた場合のみ設定できます。
Q シリーズ C24 装着局に接続	使用するリンク I/F が Q シリーズ C24 ユニットの場合にチェックを付けます。Q シリーズ C24 ユニットを使用しない場合はチェックを外します。 Q シリーズ C24 ユニットを使用しない場合にチェックを付けると、接続機器でエラーが表示される可能性があります。
3C フレーム形式 4 オプション	交信フレームが「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」の場合に、接続機器と通信するデータ形式を「X.Y 8 進数」または「X.Y 16 進数」から選択します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> • [3C フレーム形式 4 オプション] は [通信設定]-[形式] から「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を、[個別機器設定]-[基本設定]-[シリーズ] から [iQ-F シリーズ] を選択した場合のみ設定できます。
ワード内のその他のビットデータ	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」「クリアしない」から選択します。
ネットワーク番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器のネットワーク番号を「0～239」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「0」を入力します。
PC 番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の PC 番号を「0～64」「125～126」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「255」を入力します。
要求先ユニット I/O 番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の I/O 番号を「0～511」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「1023」を入力します。先頭 XY を 10 進数に変換し、16 で割った値を入力してください。
要求先ユニット局番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の局番号を「0～31」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「0」を入力します。

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO

- オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照：保守 / トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

- オフラインモードは使用する表示器によって 1 画面に表示できる設定項目数が異なります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
Q/QnA シリアルコミュニケーション [COM1] Page 1/1				
通信方式	RS232C			
通信速度	19200			
データ長	<input type="radio"/> 7 <input checked="" type="radio"/> 8			
パリティ	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 偶数 <input checked="" type="radio"/> 奇数			
ストップビット	<input checked="" type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2			
フロー制御	ER(DTR/CTS)			
タイムアウト(s)	3			
リトライ	2			
送信ウェイト(ms)	0			
形式	QnA互換4Cフレーム：形式5			
終了			戻る	2022/10/31 13:39:37

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。 重要 通信設定を行う場合、[通信方式] は表示器のシリアルインターフェイスの仕様を確認し、正しく設定してください。シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (sec) を「1 ~ 127」で入力します。 MEMO ネットワークを経由して通信する場合、タイムアウトの設定は中継局の応答監視時間よりも大きな値を設定してください。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0～255」で入力します。
形式	使用する MELSEC コミュニケーションプロトコルの交信フレームを「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」または「QnA 互換 4C フレーム：形式 5」から選択します。 MEMO マルチリンクで GP2000 シリーズを同時に使用する場合は「QnA 互換 3C フレーム：形式 4」を選択してください。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

(1/2 ページ)

通信設定	機器設定	オプション		
Q/QnA シリアルコミュニケーション		[COM1]	Page 1/2	
接続機器名 <input type="text" value="PLC1"/>				
シリーズ	Q/QnAシリーズ			
局番号	<input type="text" value="0"/>			
マルチCPU	使用しない			
QシリーズC24装着局	<input type="text" value="ON"/>			
3Cフレーム: 形式4	オプション X.Y 16進数			
ネットワーク番号	<input type="text" value="0"/>			
PC番号	<input type="text" value="255"/>			
要求先ユニット				
I/O番号	<input type="text" value="1023"/>			
局番号	<input type="text" value="0"/>			
				
終了		戻る		2022/12/16 10:34:07

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。
局番号	表示器と直接接続する接続機器の局番号を「0～31」で入力します。
マルチ CPU	マルチ CPU システムの設定を「使用しない」または「1～4」で表示します。
Q シリーズ C24 装着局	使用するリンク I/F が Q シリーズ C24 ユニットのときに「ON」を選択します。Q シリーズ C24 ユニットを使用しない場合は「OFF」を選択します。 Q シリーズ C24 ユニットを使用しない場合に「ON」を選択すると接続機器でエラーが表示される可能性があります。
3C フレーム形式 4 オプション	交信フレームが「QnA 互換 3C フレーム: 形式 4」の場合に、接続機器と通信するデータ形式を「X.Y 8 進数」または「X.Y 16 進数」で表示します。
ネットワーク番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器のネットワーク番号を「0～239」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「0」を入力します。
PC 番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の PC 番号を「0～64」「125～126」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「255」を入力します。
要求先ユニット I/O 番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の I/O 番号を「0～511」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「1023」を入力します。先頭 XY を 10 進数に変換し、16 で割った値を入力してください。
要求先ユニット局番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の局番号を「0～31」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「0」を入力します。

重要

- 同じ機器設定の機器を複数設定しないでください。不正なアドレスが読まれる場合があります。

(2/2 ページ)

通信設定	機器設定	オプション		
Q/QnA シリアルコミュニケーション		[COM1]	Page 2/2	
接続機器名 <input type="text" value="PLC1"/>				
ビット指定したワードアドレスへのビット操作				
他のビット クリアする				
				←
終了		戻る		2022/12/16 10:34:39

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
ビット指定したワードアドレスへのビット操作	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」、「クリアしない」で表示します。(オフラインモードでは設定できません。)

重要

- 同じ機器設定の機器を複数設定しないでください。不正なアドレスが読まれる場合があります。

■ オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
Q/QnA シリアルコミュニケーション		[COM1]	Page 1/1	
RI / VCC <input checked="" type="radio"/> RI <input type="radio"/> VCC RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にする かVCC(5V電源供給)にするかを選択できま ず。デジタル製RS232Cアイソレーション ユニットを使用する場合は、VCCを選択し てください。				
終了		戻る		2022/10/31 13:39:44

設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

MEMO

- GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM および GP-Rear Module の場合、オフラインモードに [オプション] の設定はありません。

5 結線図

以下に示す結線図と三菱電機（株）が推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図 1

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 (COM1) GP4000*1 (COM1) SP5000*2 (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC*3 PC/AT	1A	(株) デジタル製 三菱 Q リンクケーブル CA3-CBLLNKM01	ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。
	1B	自作ケーブル	
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	1C	自作ケーブル	ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。

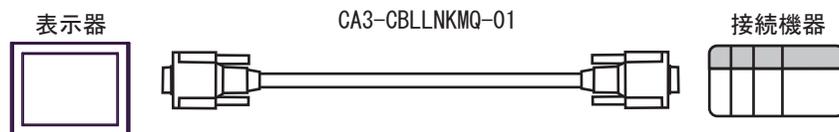
*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

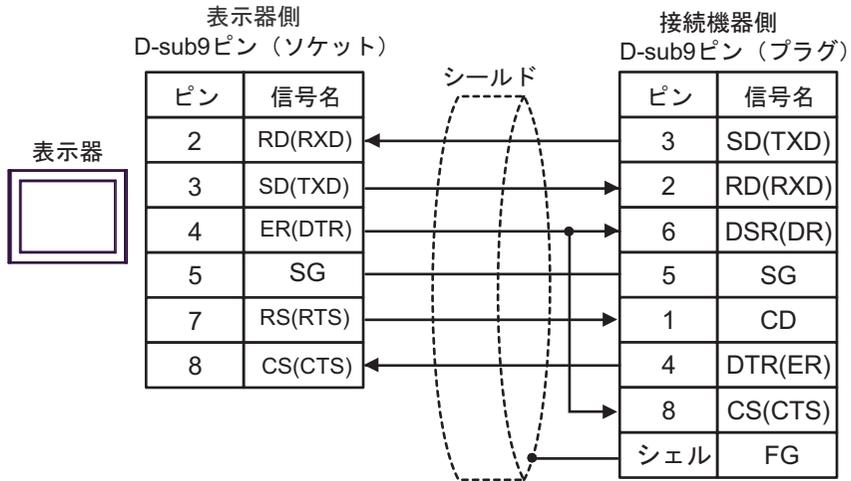
*3 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

 ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

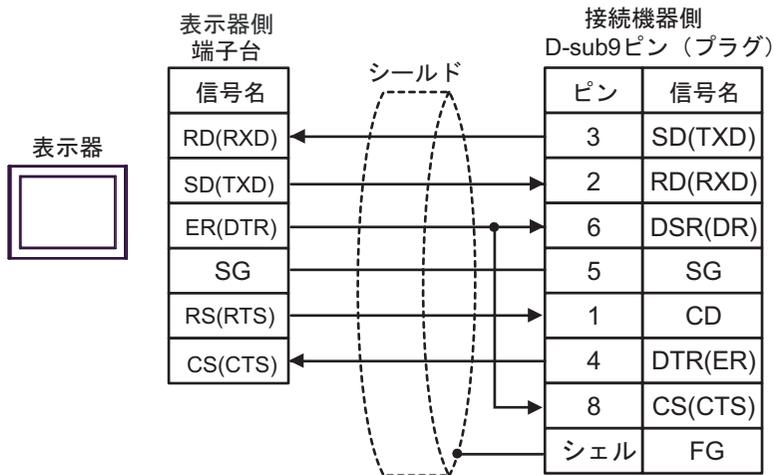
1A)



1B)



1C)



結線図 2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000*1 (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST3000*2 (COM2) LT3000 (COM1) IPC*3	2A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてください。
	2B	自作ケーブル	
GP3000*4 (COM2)	2C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてください。
	2D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1) GP-4116T (COM1)	2E	自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてください。
GP4000*5 (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000*6 (COM1/2) SP-5B00 (COM2) ST6000*7 (COM2) ST-6200 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000*8 (COM2) PS6000 (ベーシック ボックス) (COM1/2)	2F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1*9 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてください。
	2B	自作ケーブル	
PE-4000B*10 PS5000*10 PS6000 (オプションイ ンターフェイス)*10	2G	自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてください。

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く

*3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B、PS5000 および PS6000 を除く)

■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

*4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

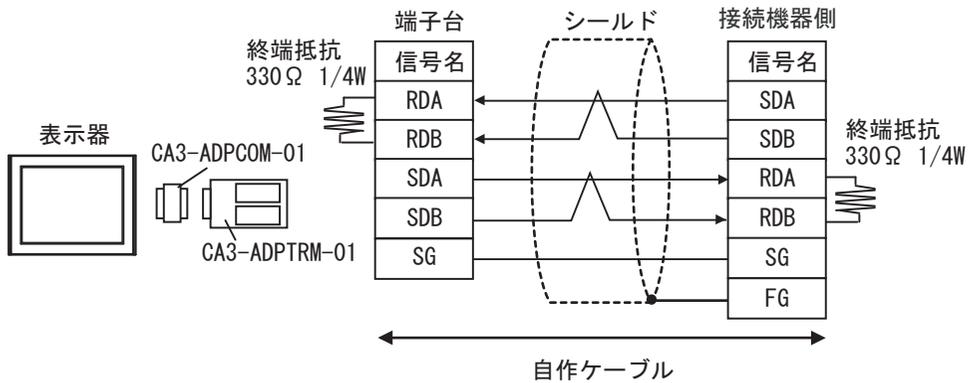
*5 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

*6 SP-5B00 を除く

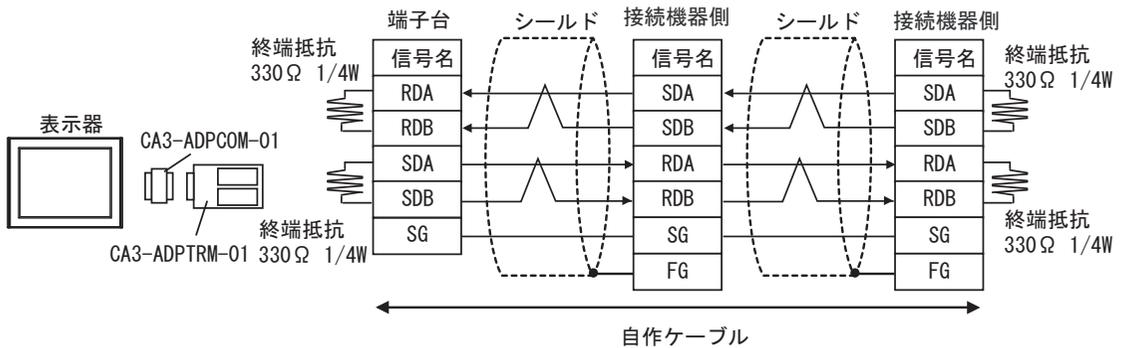
- *7 ST-6200 を除く
- *8 COM ポートの仕様上、フロー制御ができないため、結線図の表示器側の制御ピンの配線は省略してください。
- *9 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する場合、2A の結線図を参照してください。
- *10 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
 ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

2A)

- 1:1 接続の場合

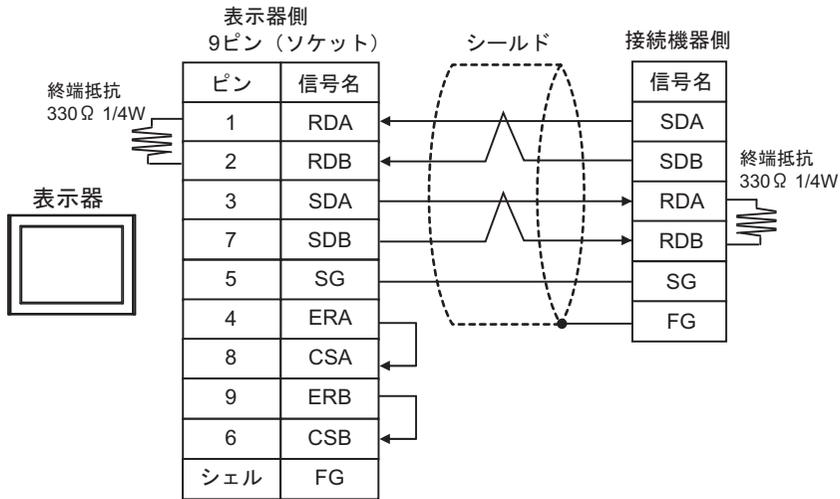


- 1:n 接続の場合

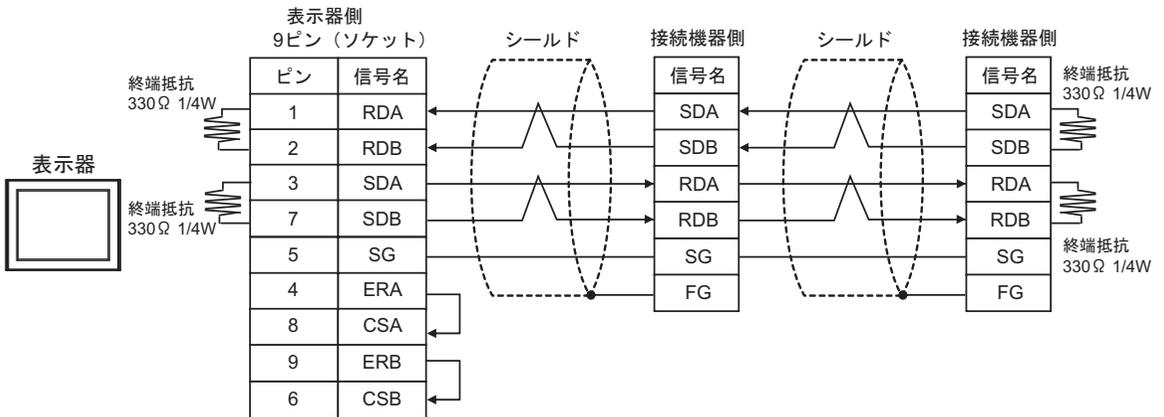


2B)

- 1:1 接続の場合

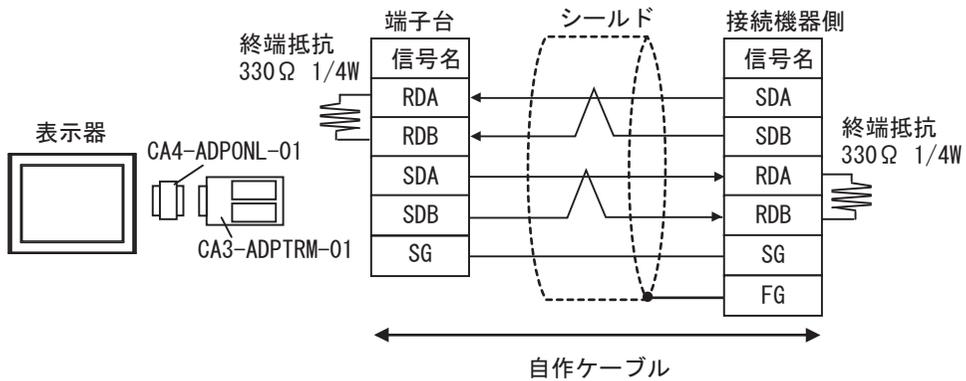


- 1:n 接続の場合

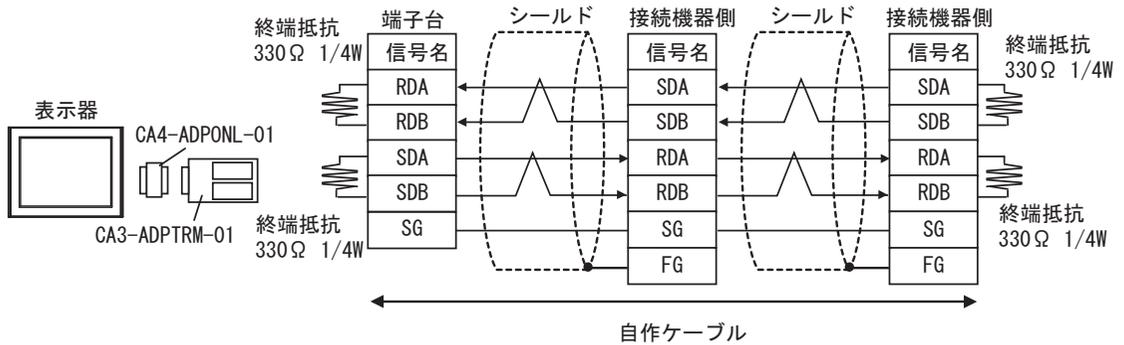


2C)

- 1:1 接続の場合

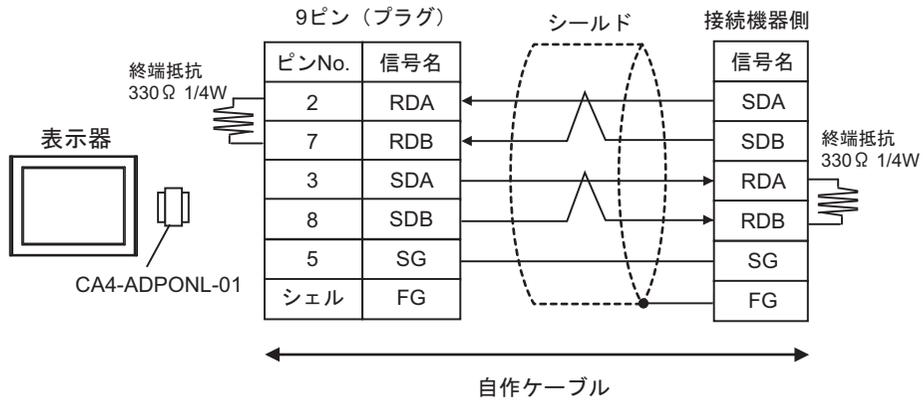


- 1:n 接続の場合

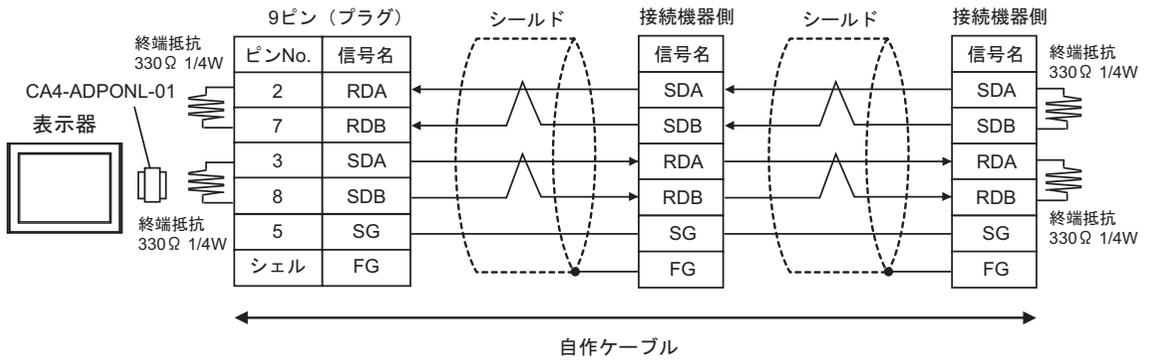


2D)

- 1:1 接続の場合

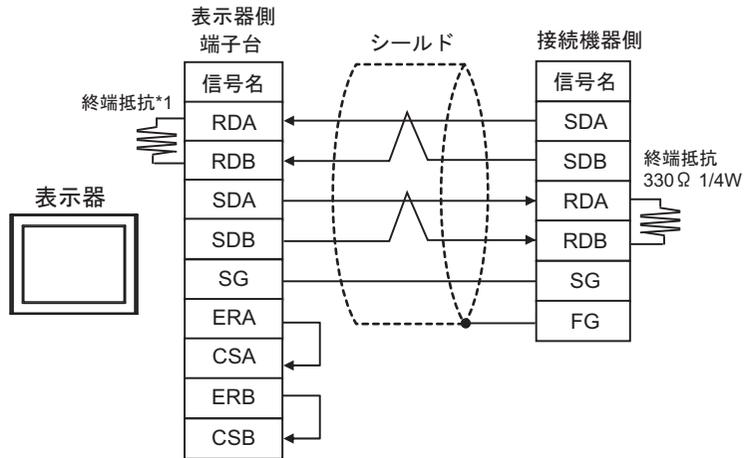


- 1:n 接続の場合



2E)

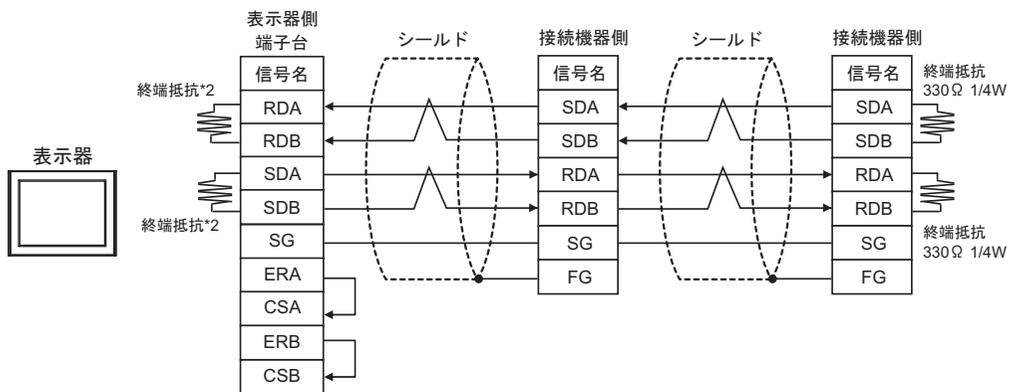
- 1:1 接続の場合



- *1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

- 1:n 接続の場合

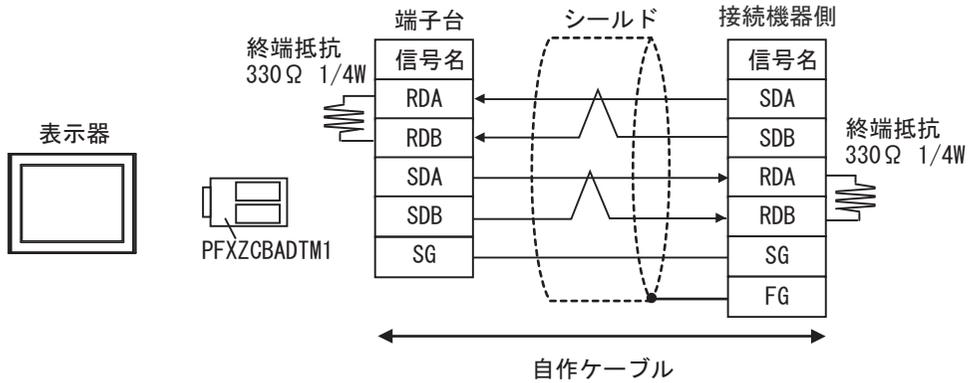


- *2 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

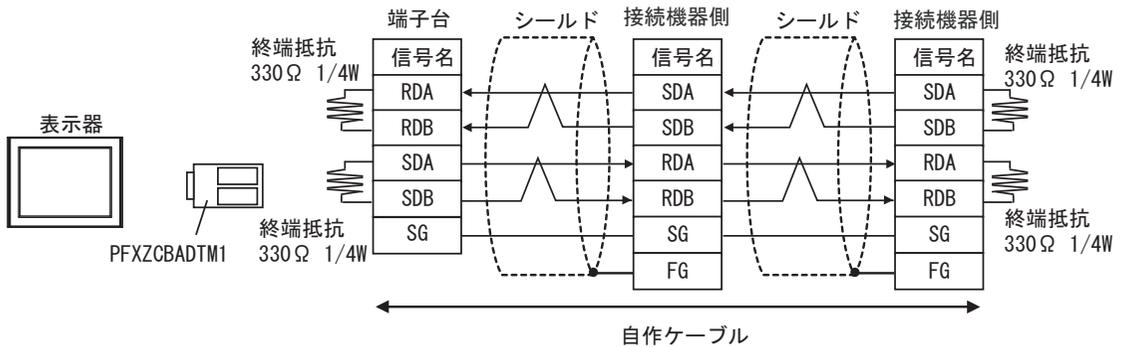
ディップスイッチ	設定内容
1	ON
2	OFF
3	ON
4	OFF

2F)

- 1:1 接続の場合

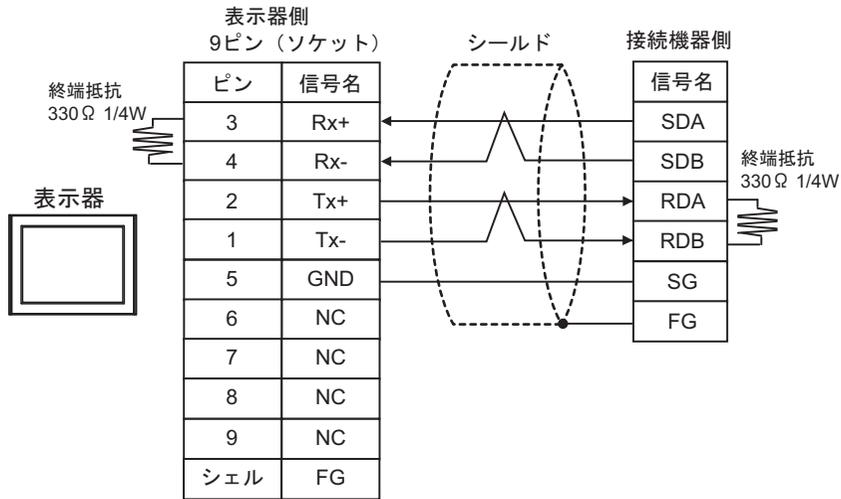


- 1:n 接続の場合

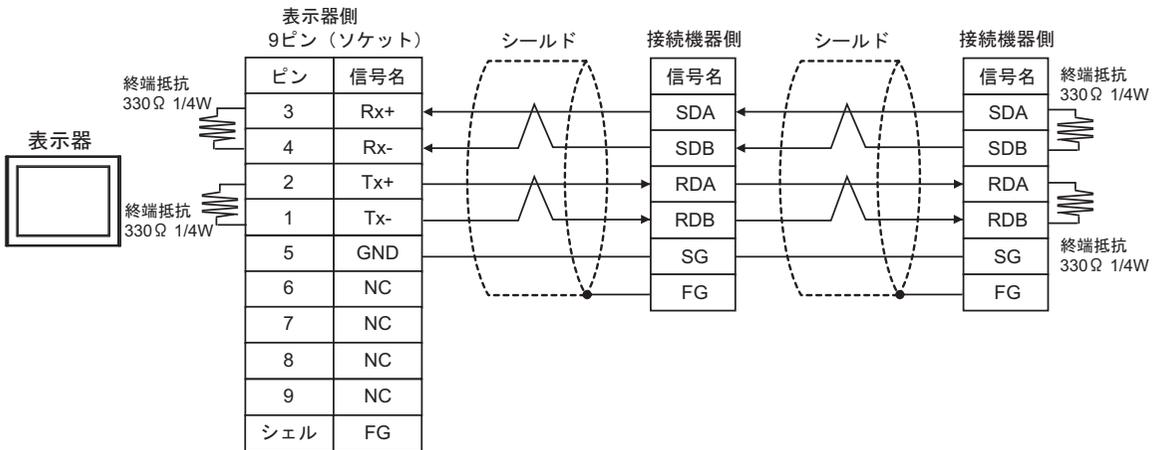


2G)

- 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合



結線図 3

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 (COM1) GP4000* ¹ (COM1) SP5000* ² (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC* ³ PC/AT	3A	(株) デジタル製 三菱 Q 接続ケーブル CA3-CBLQ-01 (5m) または 三菱電機 (株) 製 RS-232C ケーブル QC30R2 (3m) または ダイヤトレンド (株) 製 QCPU 接続用 RS-232C ケーブル DQCABR2V-H	ダイヤトレンド (株) 製 DQCABR2V-H は、15m までオーダー制作可能です。
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	3B	(株) デジタル製三菱 PLC Q シリーズ直結ケーブル ZC9CBQ31(3m)	

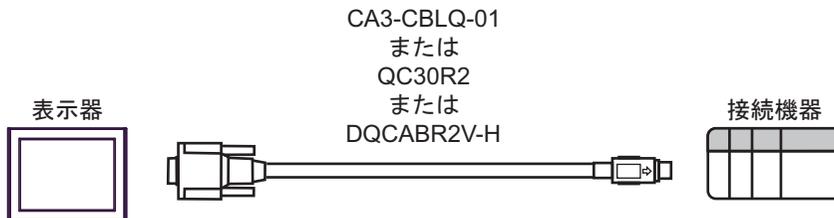
*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

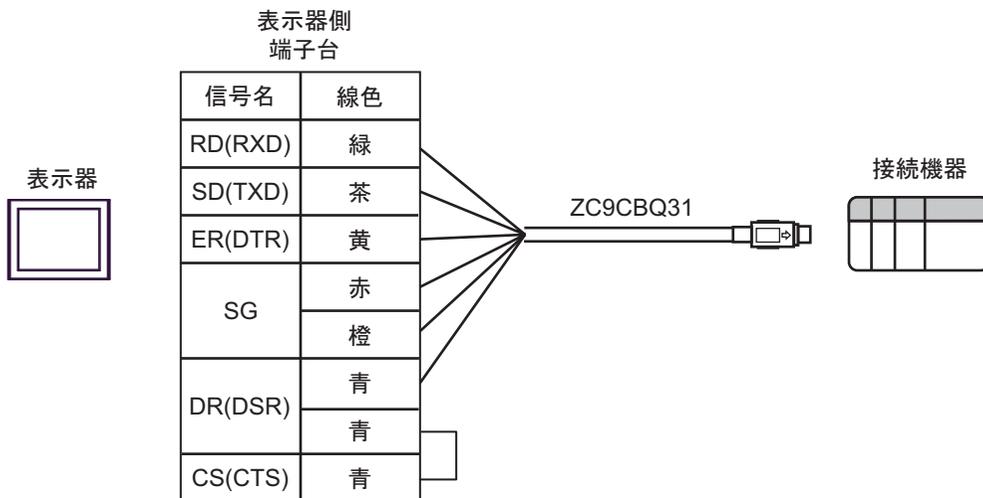
*3 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

3A)



3B)



結線図 4

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 (COM1) GP4000* ¹ (COM1) SP5000* ² (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC* ³ PC/AT	4A	(株) デジタル製 RS-232C ケーブル CA3-CBL232/5M-01 (5m)	ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。
	4B	自作ケーブル	
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	4C	自作ケーブル	ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。

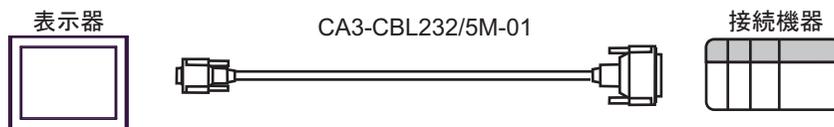
*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

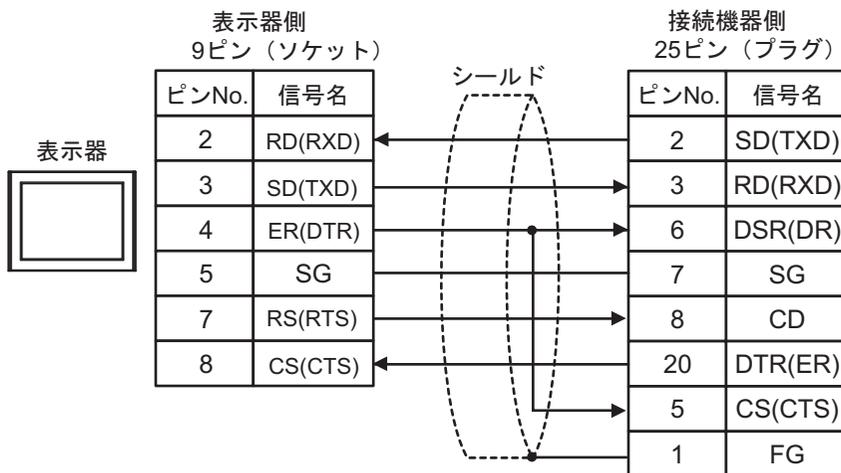
*3 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

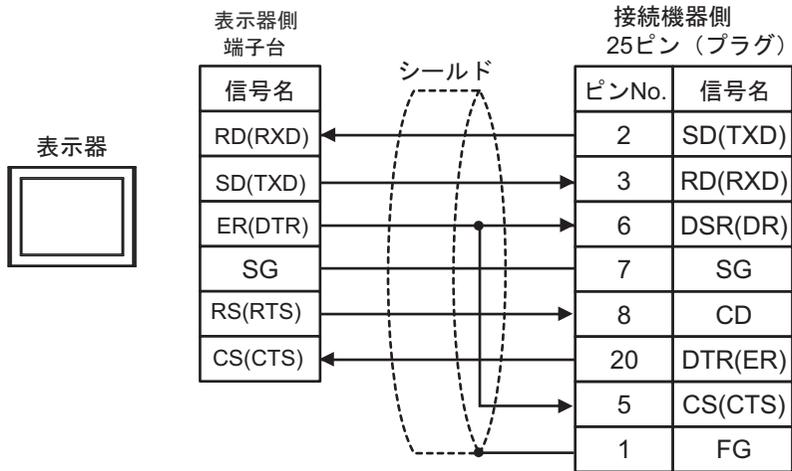
4A)



4B)



4C)



結線図 5

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000* ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST3000* ² (COM2) LT3000 (COM1) IPC* ³	5A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてくださ い。
	5B	自作ケーブル	
GP3000* ⁴ (COM2)	5C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてくださ い。
	5D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1) GP-4116T (COM1)	5E	自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてくださ い。
GP4000* ⁵ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000* ⁶ (COM1/2) SP-5B00 (COM2) ST6000* ⁷ (COM2) ST-6200 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000* ⁸ (COM2) PS6000 (ベーシック ボックス) (COM1/2)	5F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 ⁹ + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてくださ い。
	5B	自作ケーブル	
PE-4000B* ¹⁰ PS5000* ¹⁰ PS6000 (オプション インターフェイス)* ¹⁰	5G	自作ケーブル	ケーブル長は最大 500m にしてくださ い。

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く

*3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B、PS5000 および PS6000 を除く)

 ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

*4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

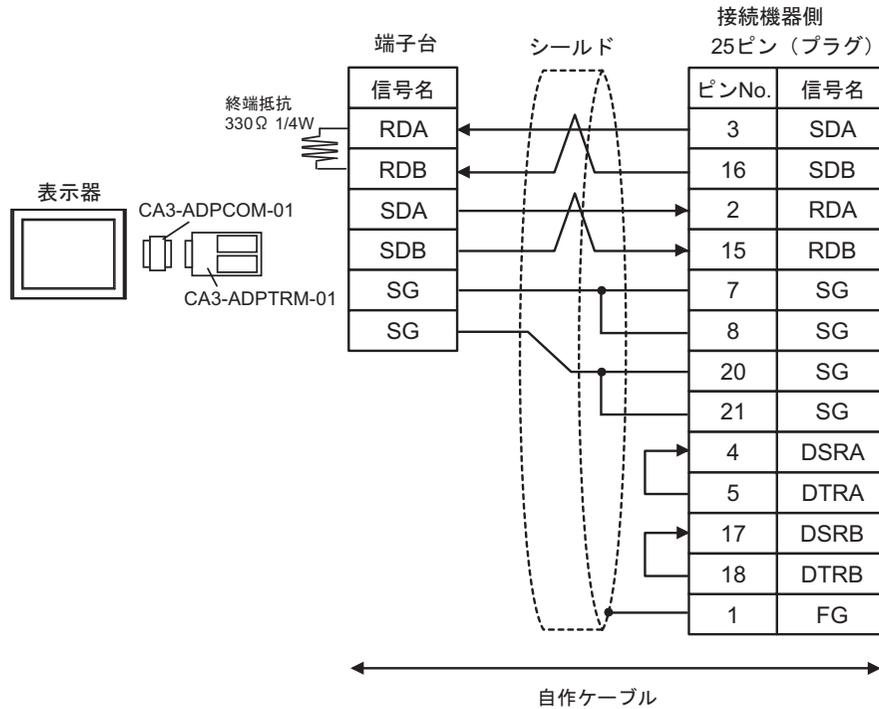
*5 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

*6 SP-5B00 を除く

*7 ST-6200 を除く

- *8 COM ポートの仕様上、フロー制御ができないため、結線図の表示器側の制御ピンの配線は省略してください。
- *9 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する場合、5A の結線図を参照してください。
- *10 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
☞ ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

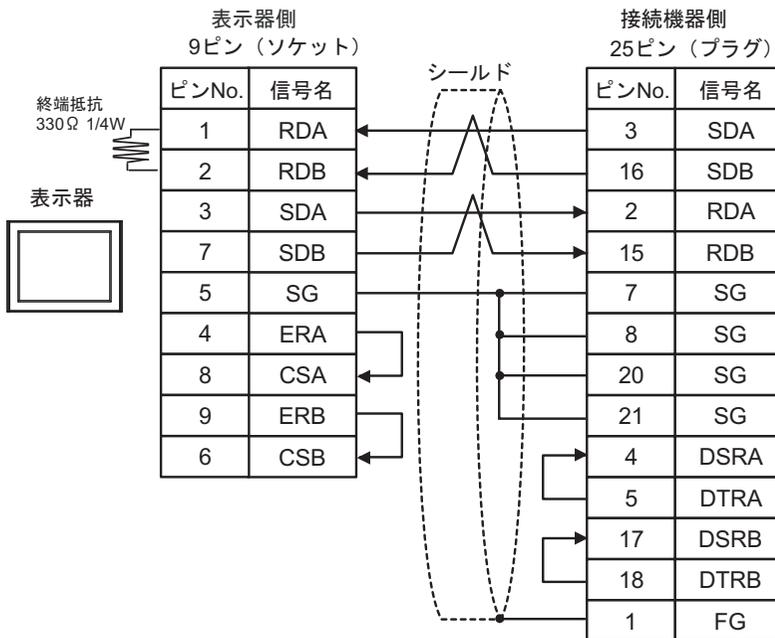
5A)



MEMO

- ・ 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

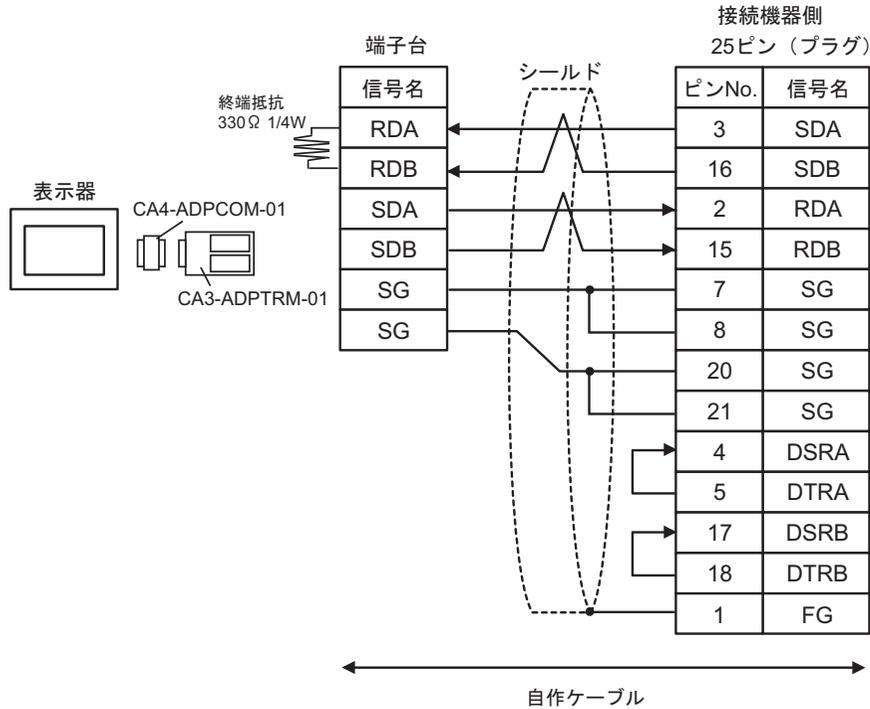
5B)



MEMO

- ・ 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

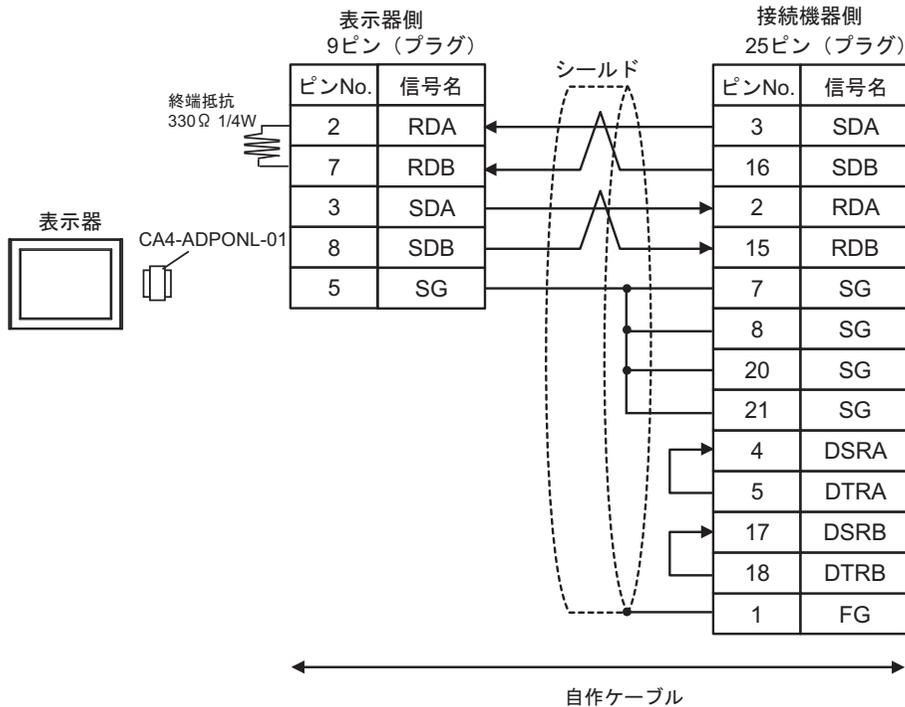
5C)



MEMO

- 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

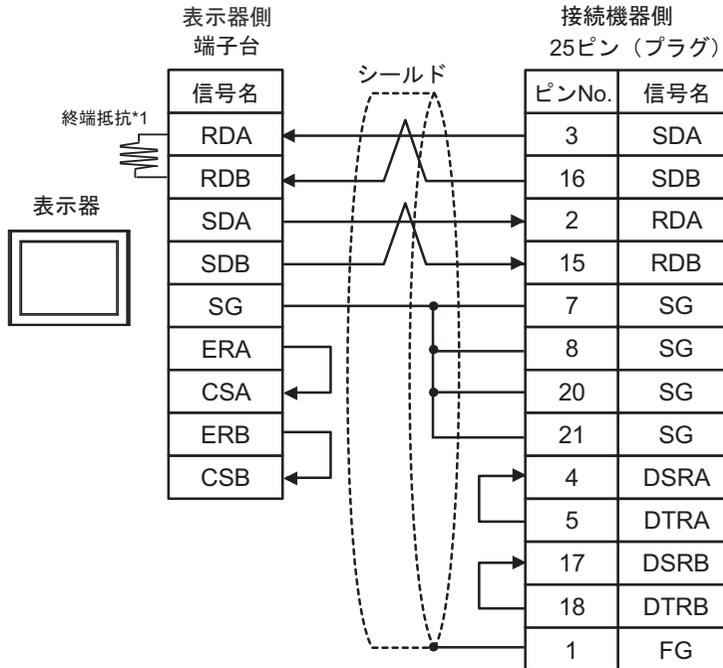
5D)



MEMO

- 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

5E)

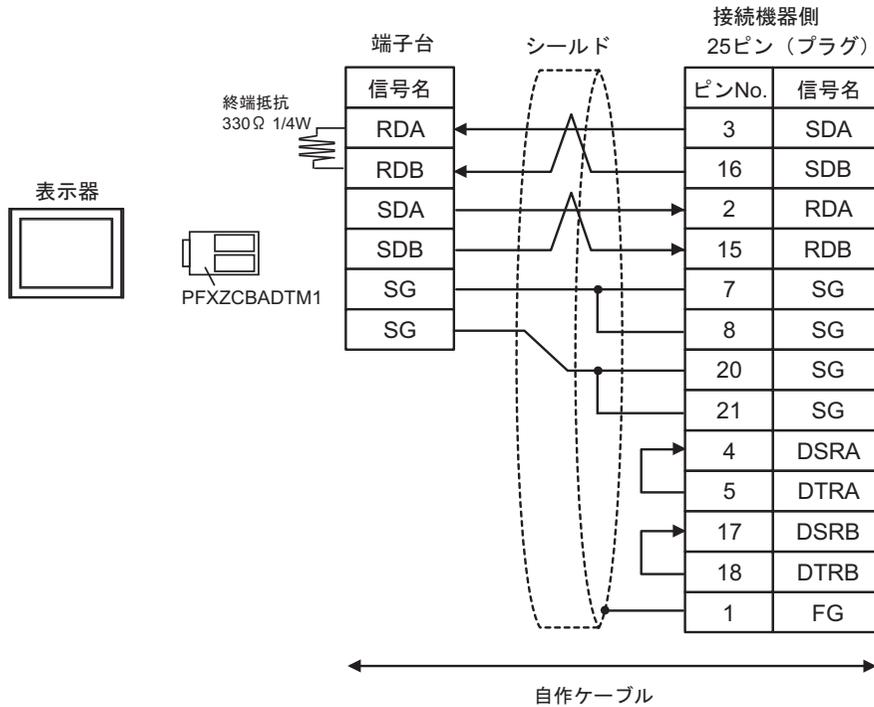
**MEMO**

- 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

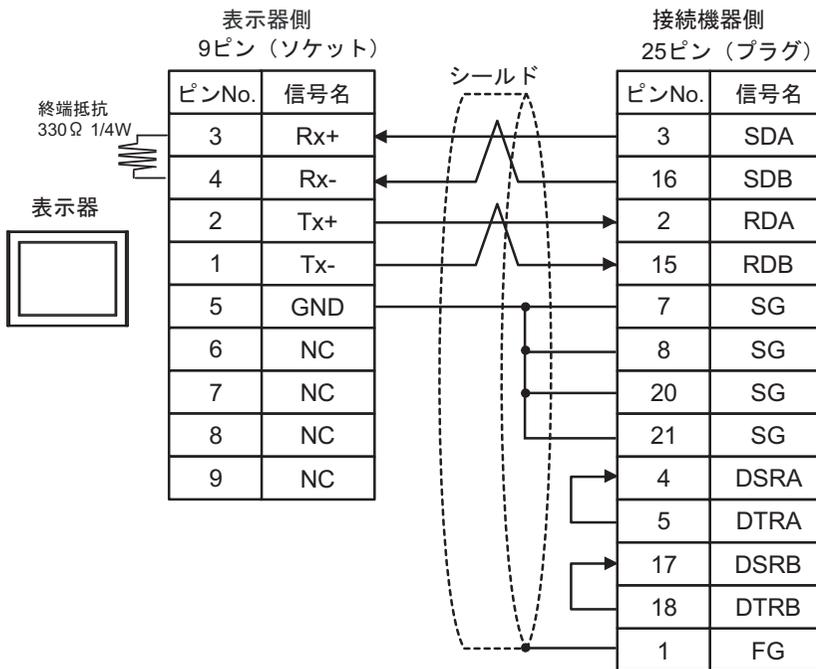
5F)



MEMO

- 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

5G)



MEMO

- 接続機器側は終端抵抗を内蔵していますので、終端抵抗の接続は不要です。

結線図 6

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000* ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST3000* ² (COM2) LT3000 (COM1) IPC* ³	6A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 1200m にしてください。
	6B	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 マルチリンクケーブル CA3-CBLMLT-01 + 自作ケーブル	
	6C	自作ケーブル	
GP3000* ⁴ (COM2)	6D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 1200m にしてください。
	6E	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 マルチリンクケーブル CA3-CBLMLT-01 + 自作ケーブル	
	6F	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1) GP-4116T (COM1)	6G	自作ケーブル	ケーブル長は最大 1200m にしてください。
GP4000* ⁵ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000* ⁶ (COM1/2) SP-5B00 (COM2) ST6000* ⁷ (COM2) ST-6200 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000* ⁸ (COM2) PS6000 (ベーシック ボックス) (COM1/2)	6H	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1* ⁹ + 自作ケーブル	ケーブル長は最大 1200m にしてください。
	6I	(株) デジタル製 マルチリンクケーブル PFXZCBCBML1* ¹⁰ + 自作ケーブル	
	6C	自作ケーブル	

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
PE-4000B*11 PS5000*11 PS6000 (オプション インターフェイス) *11	6J	自作ケーブル	ケーブル長は最大 1200m にしてください。

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く

*3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B、PS5000 および PS6000 を除く)

☞ ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

*4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*5 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

*6 SP-5B00 を除く

*7 ST-6200 を除く

*8 COM ポートの仕様上、フロー制御ができないため、結線図の表示器側の制御ピンの配線は省略してください。

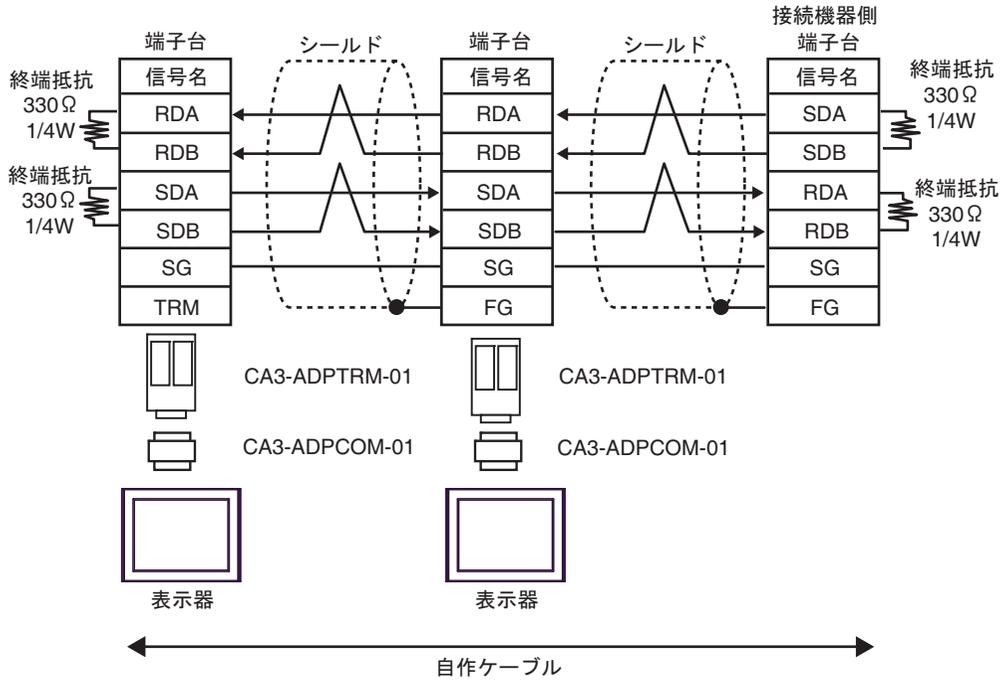
*9 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する場合、6A の結線図を参照してください。

*10 マルチリンクケーブルの代わりにマルチリンクケーブル (CA3-CBLMLT-01) を使用する場合、6B の結線図を参照してください。

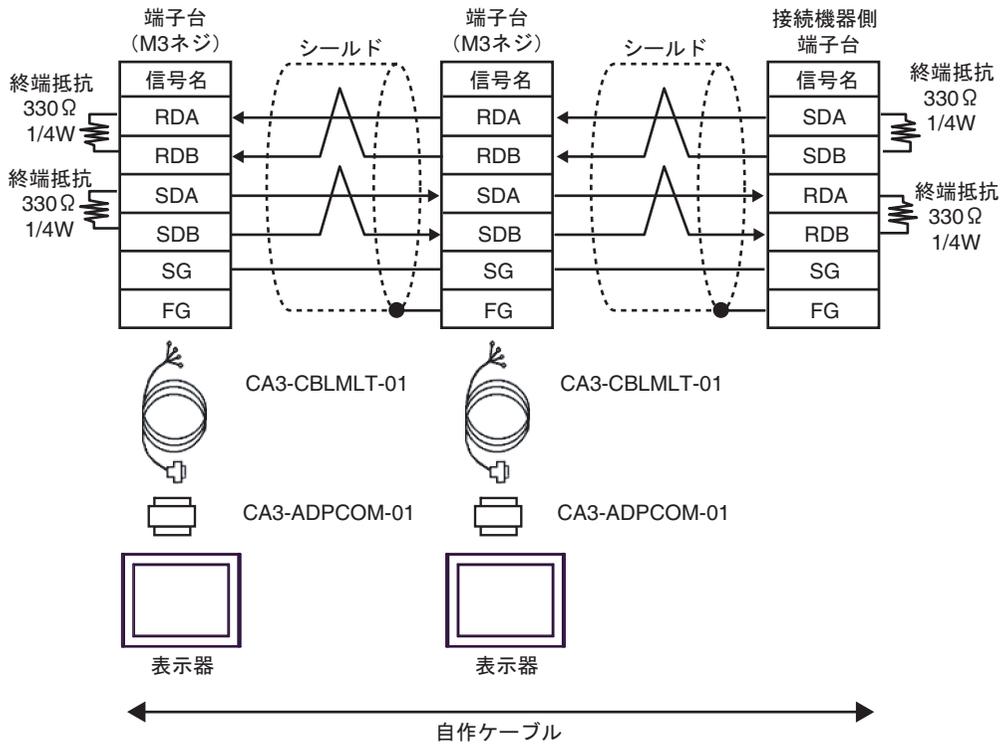
*11 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

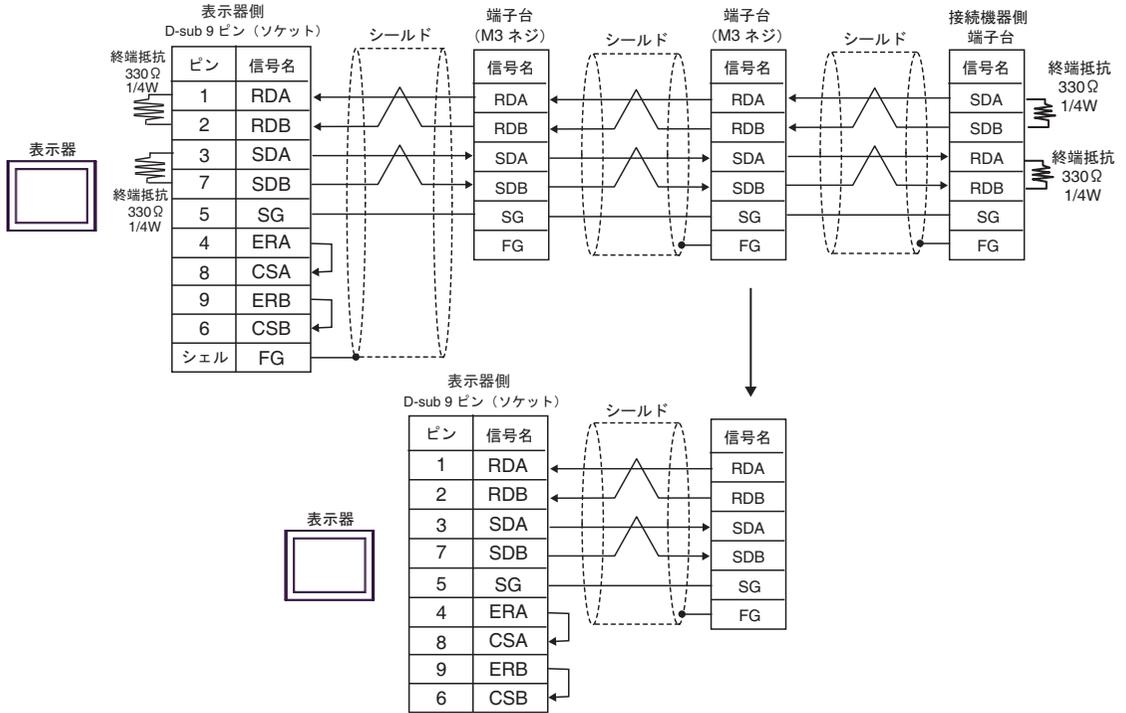
6A)



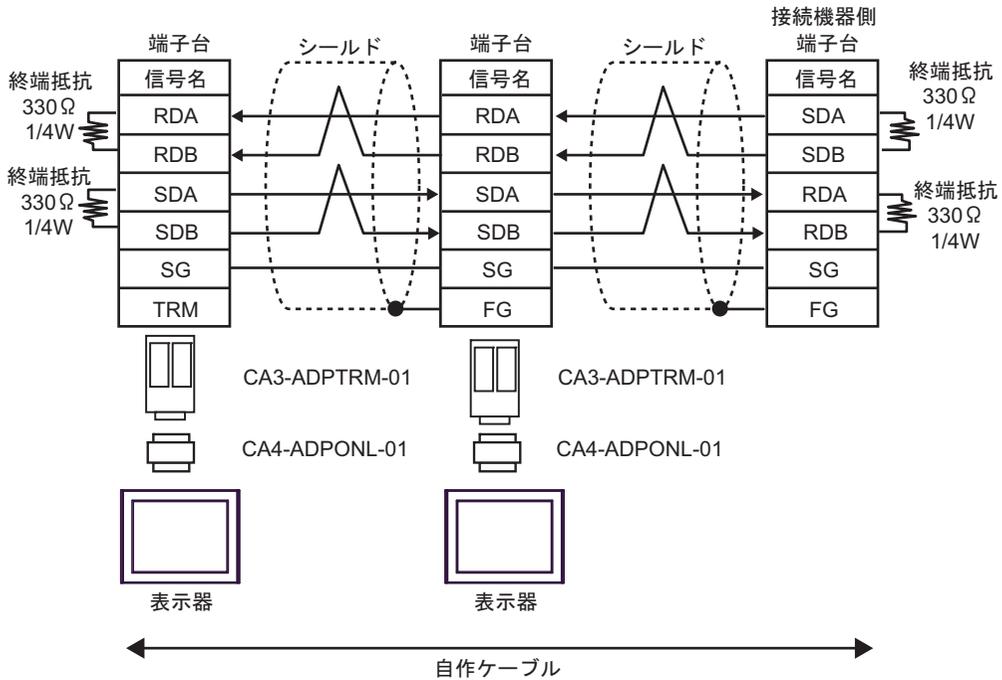
6B)



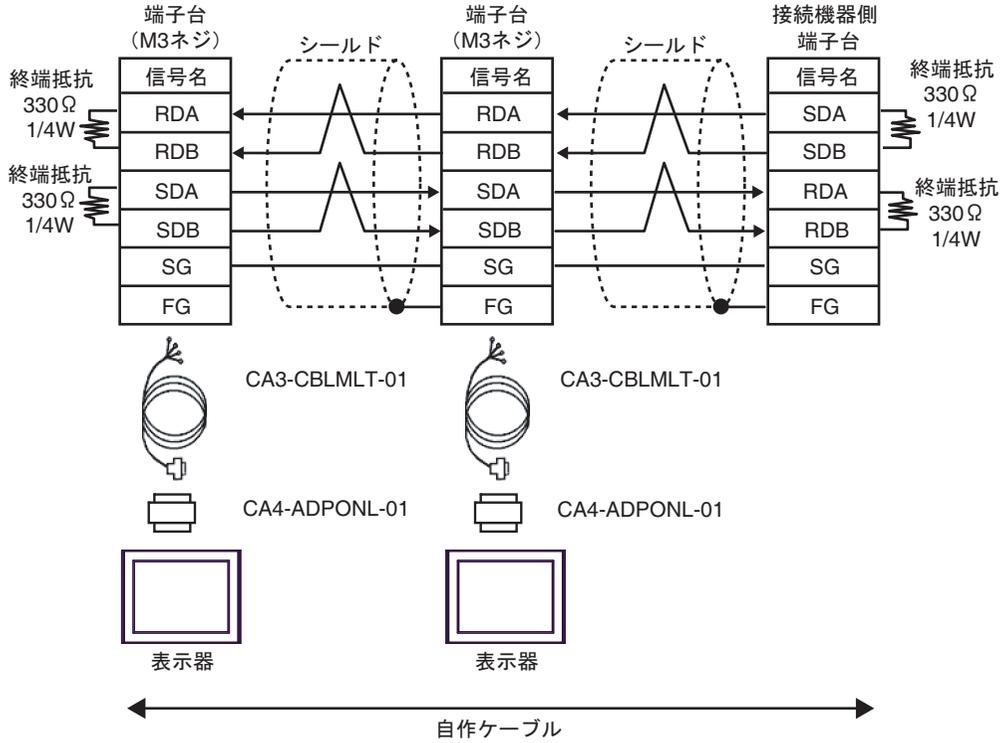
6C)



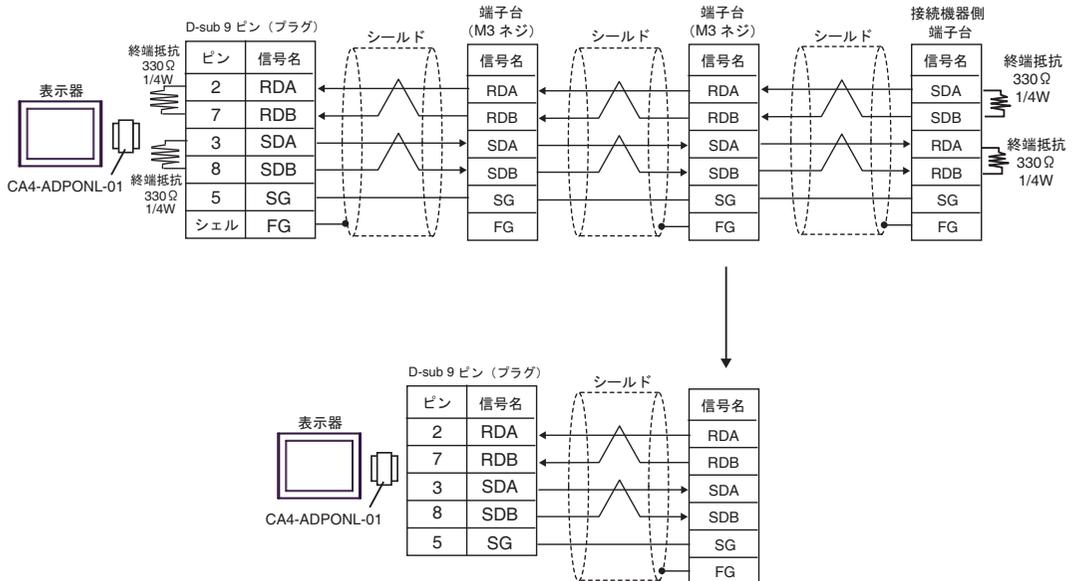
6D)



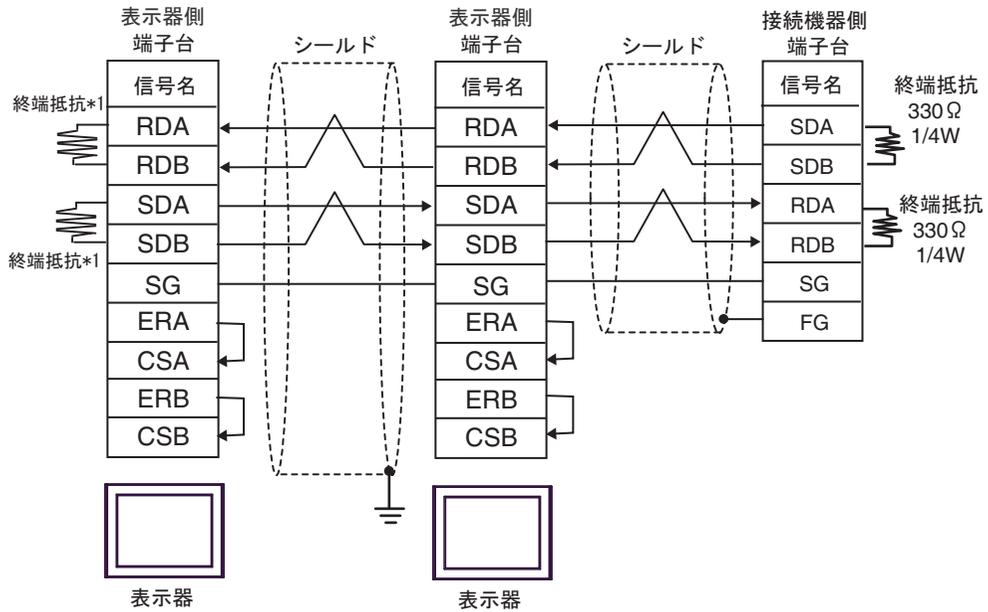
6E)



6F)



6G)

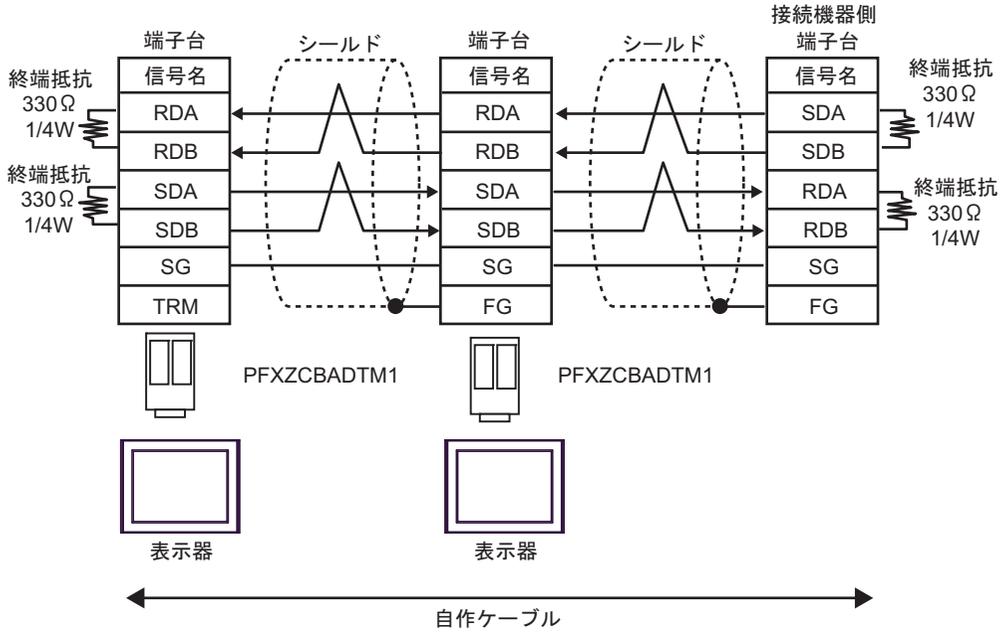


- *1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

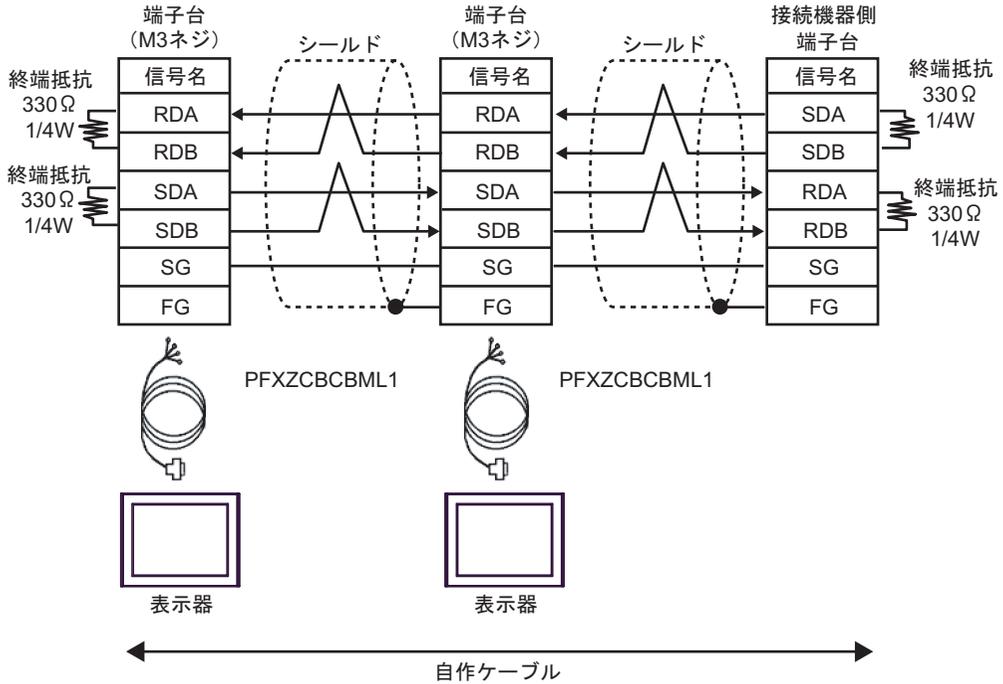
ディップスイッチ	設定内容
1	ON
2	OFF
3	ON
4	OFF

n:1 接続の場合、終端となる表示器以外は表示器背面のディップスイッチ1から4をすべてOFFしてください。

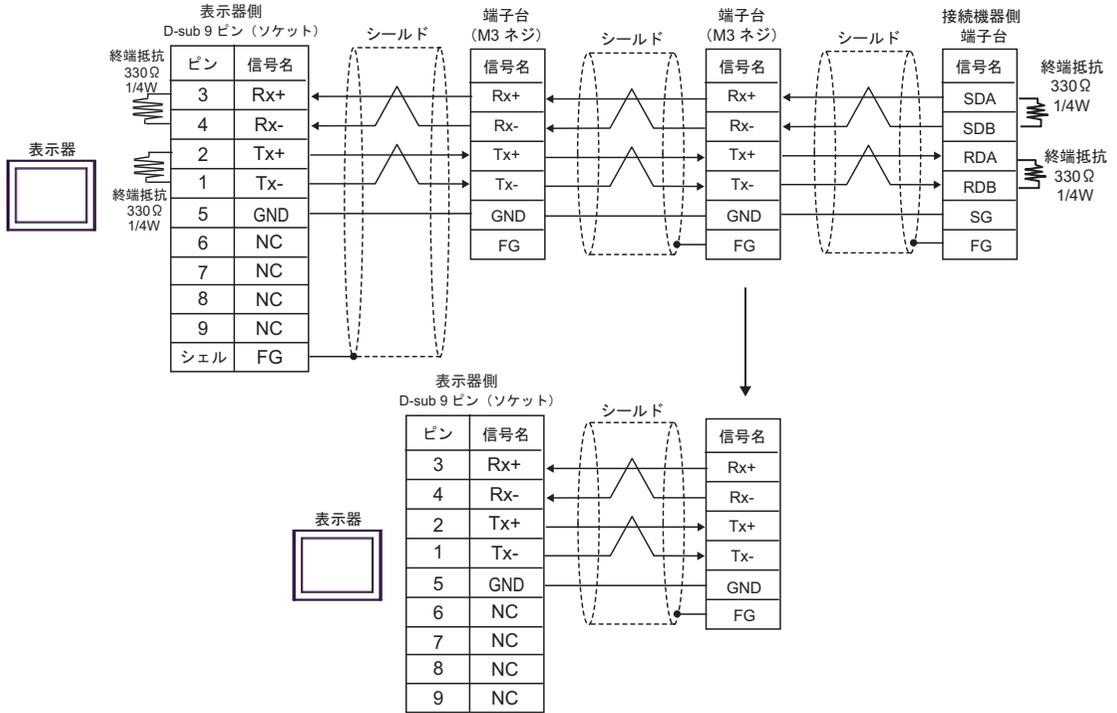
6H)



6I)



6J)



結線図 7

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 (COM1) GP4000* ¹ (COM1) SP5000* ² (COM1/2) SP-5B00 (COM1)	7A	三菱電機 (株) 製 RS-232C 接続ケーブル FX-232CAB-1(3m)	
ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC* ³ PC/AT	7B	自作ケーブル	ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	7C	自作ケーブル	ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。

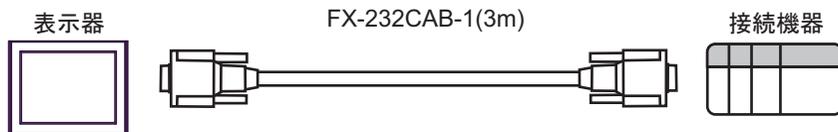
*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

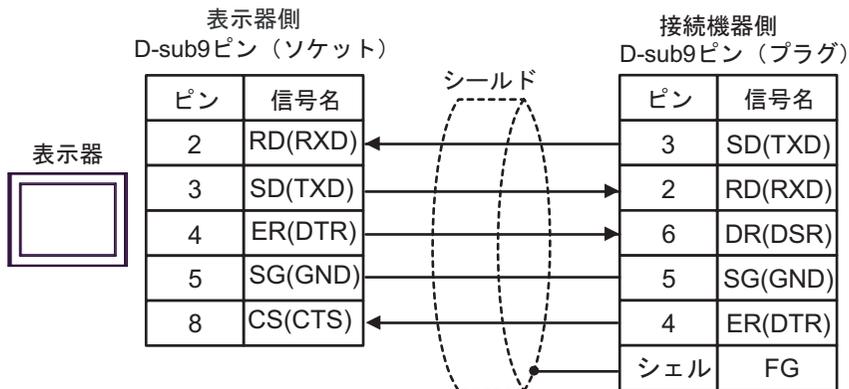
*3 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

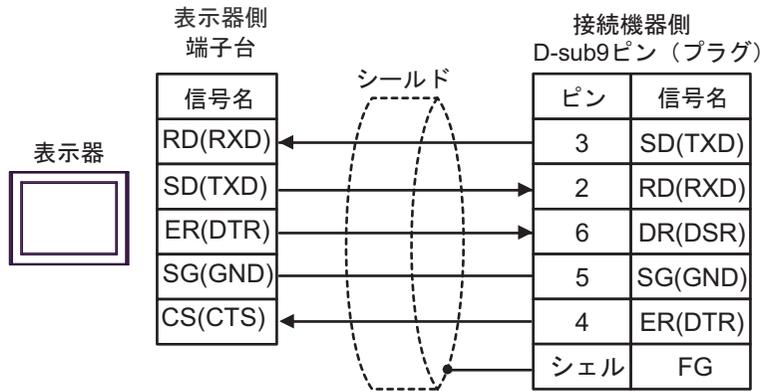
7A)



7B)



7C)



結線図 8

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000* ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST* ² (COM2) IPC* ³ LT3000* ⁴ (COM1)	8A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてください。
	8B	自作ケーブル	
GP3000* ⁵ (COM2)	8C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてください。
	8D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	8E	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてください。
GP4000* ⁶ (COM2) GP-4201T (COM1)	8F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1* ⁷ + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてください。
	8B	自作ケーブル	

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

*3 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
■ IPC の COM ポートについて (10 ページ)

*4 LT3201A を除く

*5 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*6 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

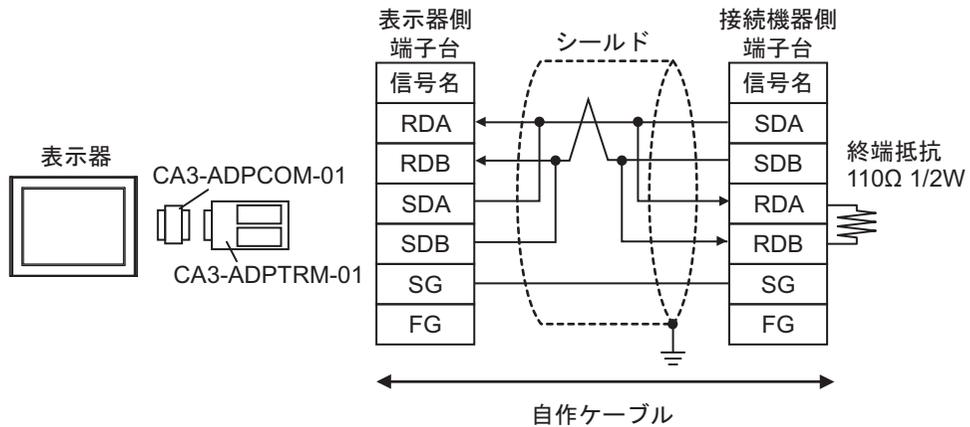
*7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
場合、8A の結線図を参照してください。

MEMO

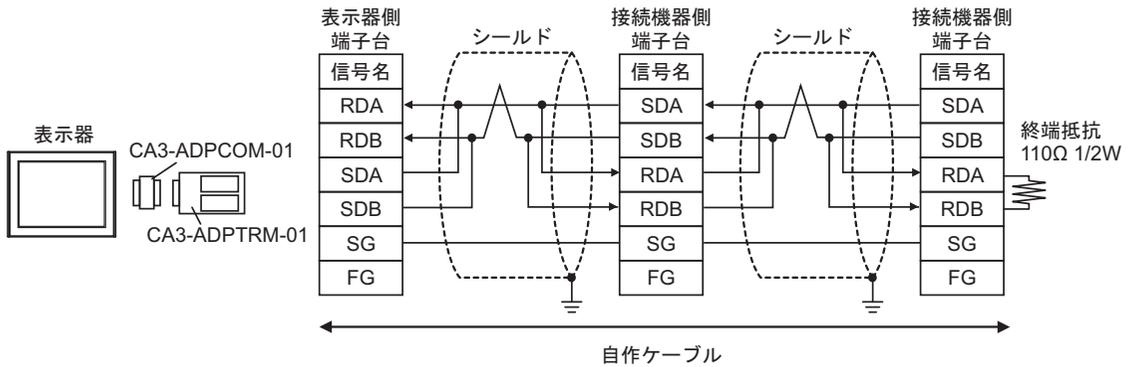
- 結線図 8A、8B、8C、8D のケーブルのシールドは必ず D 種接地してください。

8A)

- 1:1 接続の場合

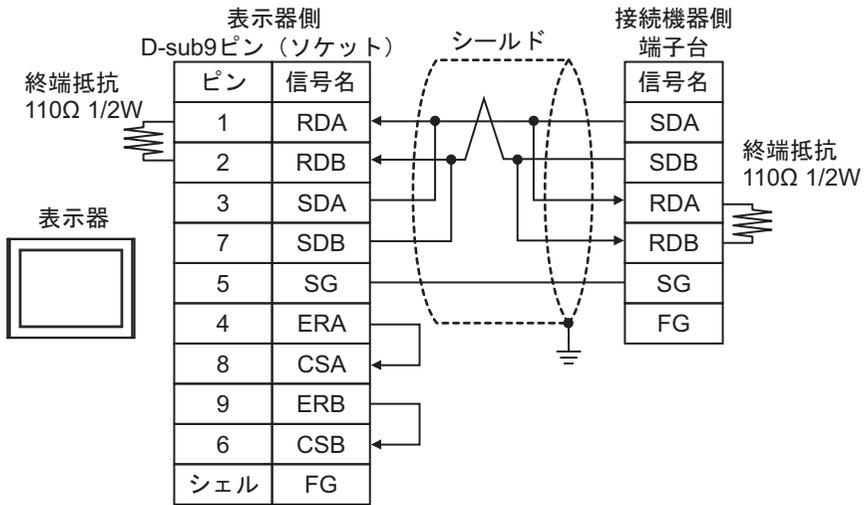


- 1:n 接続の場合

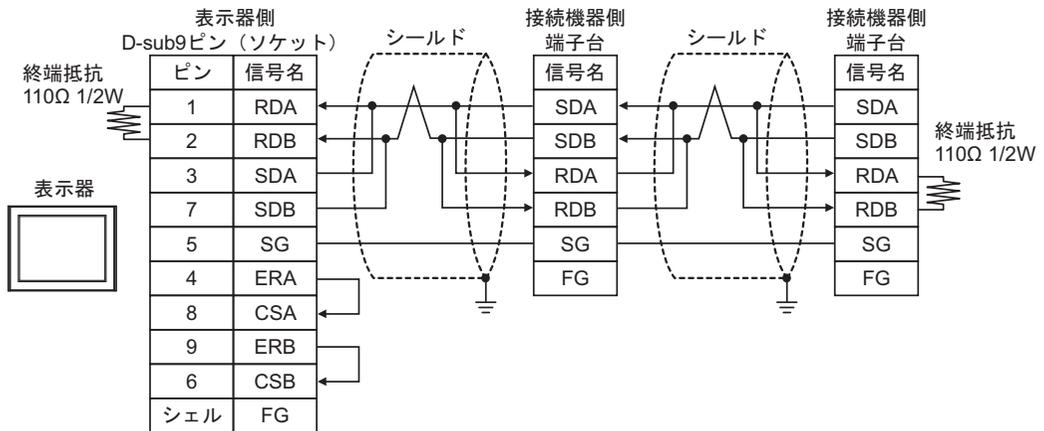


8B)

- 1:1 接続の場合

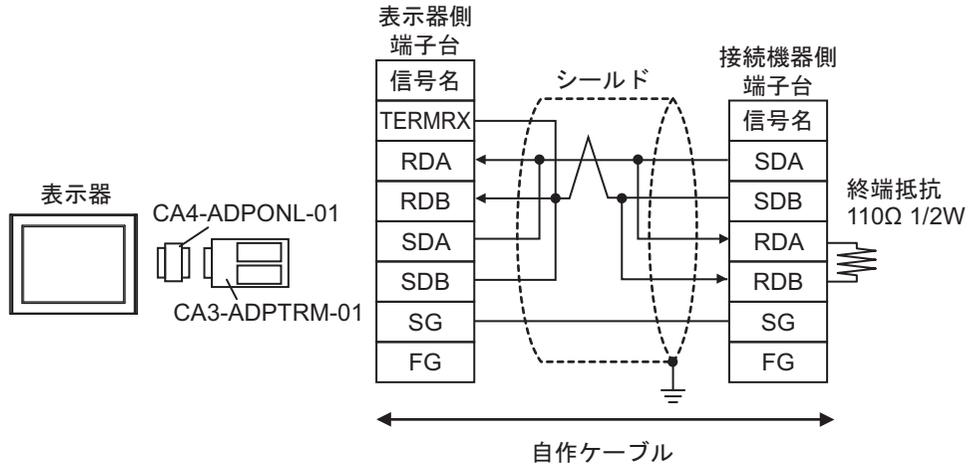


- 1:n 接続の場合

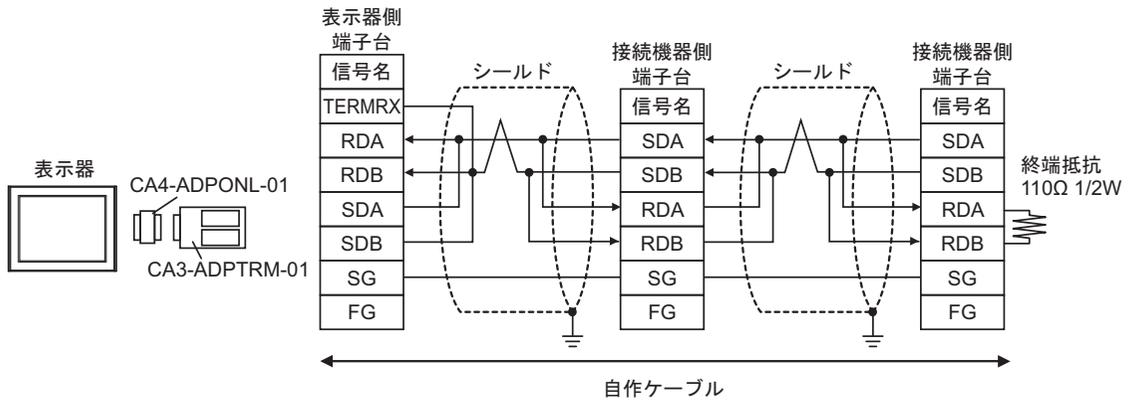


8C)

- 1:1 接続の場合

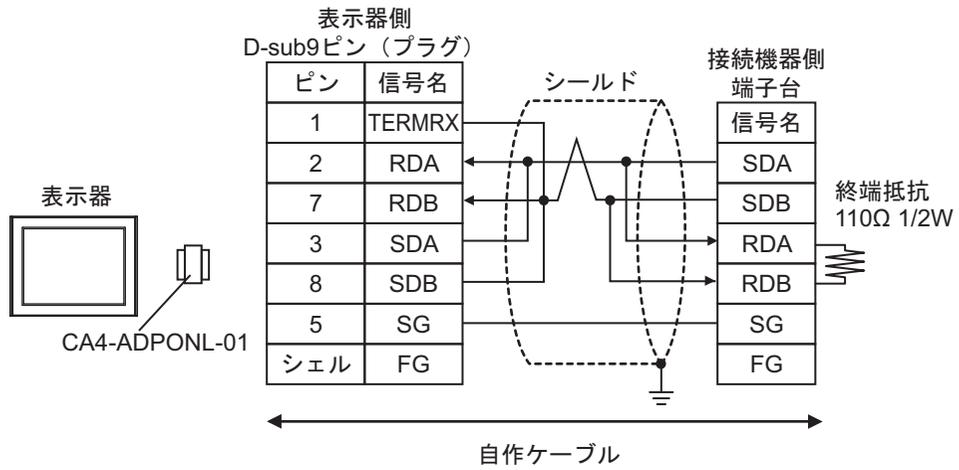


- 1:n 接続の場合

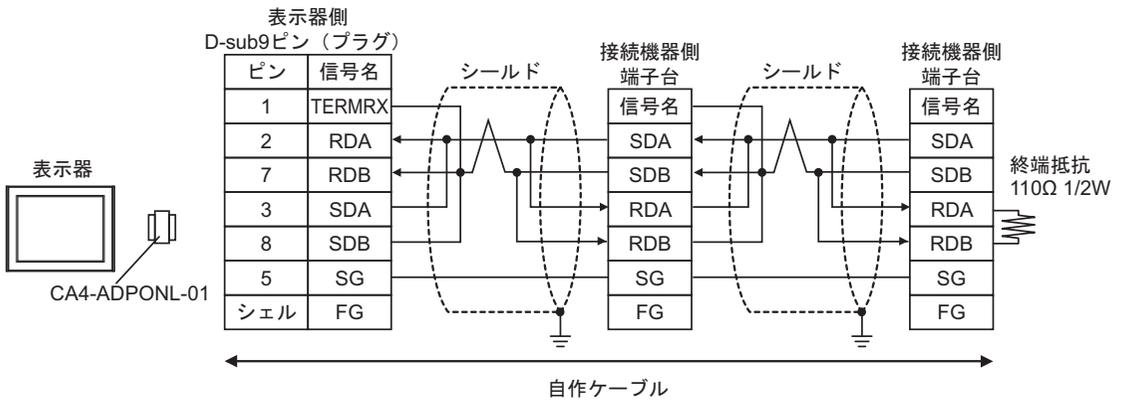


8D)

- 1:1 接続の場合

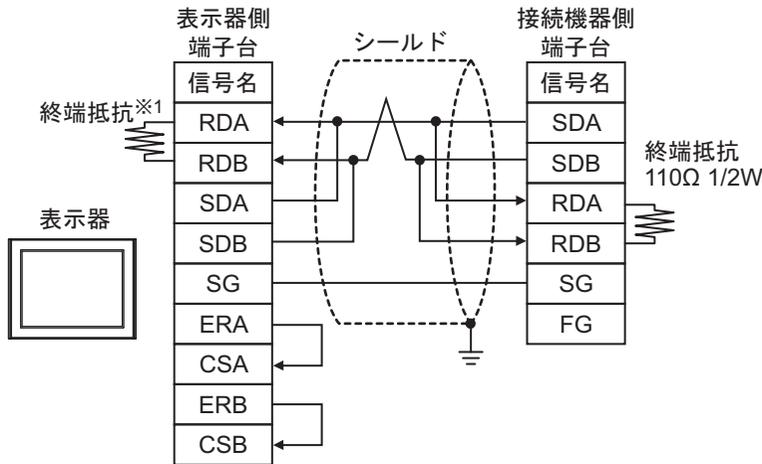


- 1:n 接続の場合

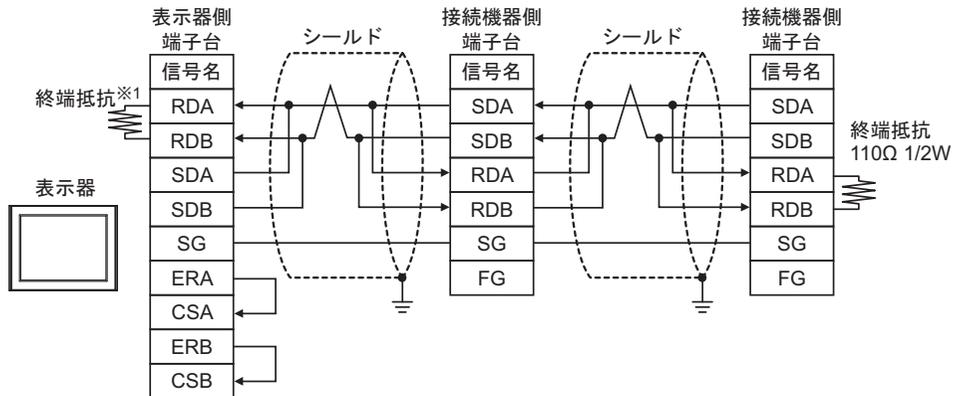


8E)

- 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合

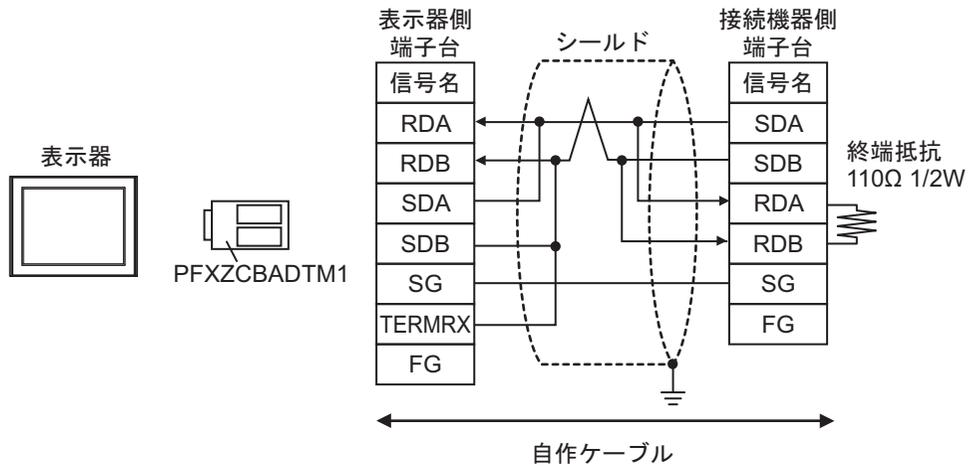


*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

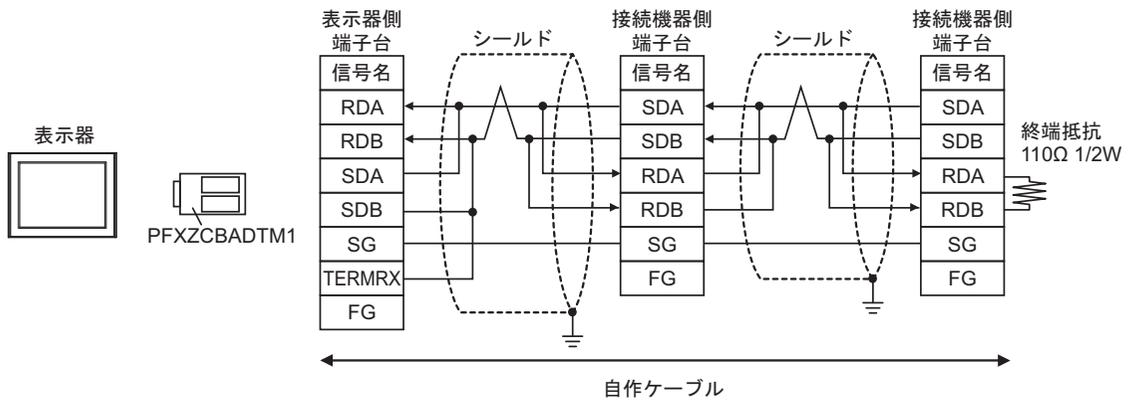
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

8F)

- 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合

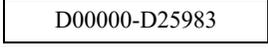


6 使用可能なデバイスアドレス範囲

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

6.1 MELSEC Q (ハイパフォーマンスモデル、ベーシックモデル) / MELSEC QnA シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
入力リレー	X0000-X1FFF	X0000-X1FF0		
出力リレー	Y0000-Y1FFF	Y0000-Y1FF0		
内部リレー	M00000-M32767	M00000-M32752		
特殊リレー	SM0000-SM2047	SM0000-SM2032		
保持リレー	L00000-L32767	L00000-L32752		
アナンシェータ	F00000-F32767	F00000-F32752		
エッジリレー	V00000-V32767	V00000-V32752		
ステップリレー	S0000-S8191	S0000-S8176		
リンクリレー	B0000-B7FFF	B0000-B7FF0		
特殊リンクリレー	SB000 - SB7FF	SB000 - SB7F0		
タイマ (接点)	TS00000-TS23087	—		
タイマ (コイル)	TC00000-TC23087	—		
積算タイマ (接点)	SS00000-SS23087	—		
積算タイマ (コイル)	SC00000-SC23087	—		
カウンタ (接点)	CS00000-CS23087	—		
カウンタ (コイル)	CC00000-CC23087	—		
タイマ (現在値)	—	TN00000-TN23087		
積算タイマ (現在値)	—	SN00000-SN23087		
カウンタ (現在値)	—	CN00000-CN23087		
データレジスタ	—	 D00000-D25983		 *1
特殊レジスタ	—	SD0000-SD2047		 *1
リンクレジスタ	—	W0000-W657F		 *1
特殊リンクレジスタ	—	SW000-SW7FF		 *1
ユニットアクセスデバイス	—	U000-G00000 - U1FF-G65535		 *1 *2

次のページに続きます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
ファイルレジスタ (通常)	—	R00000-R32767		*1 *3
ファイルレジスタ (連番)	—	ZR00000000-ZR1042431		*1 *2
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)*4	—	0R0000-0R32767		*1 *2
	—	1R0000-1R32767		
	—	2R0000-2R32767		
	:	:		
	—	30R0000-30R32767		
	—	31R0000-31R26623		

*1 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。

[クリアする]

[クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*2 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の 3 桁はインテリジェントモジュールの開始 I/O 番号を指定します。

*3 ファイルレジスタの範囲は使用するメモリカードによって異なります。

*4 デバイス名の先頭にブロック No. を設定します。これは GP-PRO/PB III for Windows との互換用のデバイス表記です。新規でデバイスを指定する場合は、ファイルレジスタ (連番) の使用を推奨します。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

「表記のルール」

6.2 MELSEC Q (ユニバーサルモデル) シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	CPU ユニットの シリアル No. の 上 5 桁が 10042 未満		CPU ユニットの シリアル No. の 上 5 桁が 10042 以降		32bits	備考
	ビット アドレス	ワード アドレス	ビット アドレス	ワード アドレス		
入力リレー	X0000-X1FFF	X0000-X1FF0	X0000-X1FFF	X0000-X1FF0	L/H	 0
出力リレー	Y0000-Y1FFF	Y0000-Y1FF0	Y0000-Y1FFF	Y0000-Y1FF0		 0
内部リレー	M00000- M32767	M00000- M32752	M00000- M61439	M00000- M61424		 16
特殊リレー	SM0000- SM2047	SM0000- SM2032	SM0000- SM2047	SM0000- SM2032		 16
保持リレー	L00000- L32767	L00000- L32752	L00000- L32767	L00000- L32752		 16
アナンシェータ	F00000- F32767	F00000- F32752	F00000- F32767	F00000- F32752		 16
エッジリレー	V00000- V32767	V00000- V32752	V00000- V32767	V00000- V32752		 16
ステップリレー	S0000-S8191	S0000-S8176	S0000-S8191	S0000-S8176		 16
リンクリレー	B0000-B7FFF	B0000-B7FF0	B0000-BEFFF	B0000-BEFFF0		 0
特殊リンクリレー	SB0000 - SB7FFF	SB0000 - SB7FF0	SB0000 - SB7FFF	SB0000 - SB7FF0		 0
タイマ (接点)	TS00000- TS25023	—	TS00000- TS25471	—		
タイマ (コイル)	TC00000- TC25023	—	TC00000- TC25471	—		
積算タイマ (接点)	SS00000- SS25023	—	SS00000- SS25471	—		
積算タイマ (コイル)	SC00000- SC25023	—	SC00000- SC25471	—		
カウンタ (接点)	CS00000- CS25023	—	CS00000- CS25471	—		
カウンタ (コイル)	CC00000- CC25023	—	CC00000- CC25471	—		
タイマ (現在値)	—	TN00000- TN25023	—	TN00000- TN25471		

次のページに続きます。

デバイス	CPU ユニットの シリアル No. の 上 5 桁が 10042 未満		CPU ユニットの シリアル No. の 上 5 桁が 10042 以降		32bits	備考
	ビット アドレス	ワード アドレス	ビット アドレス	ワード アドレス		
積算タイマ (現在値)	—	SN00000- SN25023	—	SN00000- SN25471	L/H	
カウンタ (現在値)	—	CN00000- CN25023	—	CN00000- CN25471		
データレジスタ / 拡張データレジスタ *1	—	D00000- D28159	—	D0000000- D4910079 *2		 *3
特殊レジスタ	—	SD0000- SD2047	—	SD0000- SD2047		 *3
リンクレジスタ / 拡張リンクレジスタ *4	—	W0000- W6DFF	—	W000000- W4AEBFF *2		 *3
特殊リンクレジスタ	—	SW0000- SW6DFF	—	SW0000- SW6FFF		 *3
ユニットアクセスデバイス	—	U000-G00000 - U1FF- G65535	—	U000-G00000 - U1FF- G65535		 *3 *5
ファイルレジスタ (通常)	—	R00000- R32767	—	R00000- R32767		 *3 *6
ファイルレジスタ (連番)	—	ZR0000000- ZR4184063	—	ZR0000000- ZR4849663		 *3 *6
ファイルレジスタ (0R ~ 31R) *7	—	0R00000- 0R32767	—	0R00000- 0R32767		 *3 *6
	—	1R00000- 1R32767	—	1R00000- 1R32767		
	—	2R00000- 2R32767	—	2R00000- 2R32767		
	:	:	:	:		
	—	30R00000- 30R32767	—	30R00000- 30R32767		
	—	31R00000- 31R26623	—	31R00000- 31R26623		

*1 拡張データレジスタはCPUユニットのシリアルNo.の上5桁が"09042"以降の場合のみ使用できます。

*2 D0065536 以降のアドレスおよび W010000 以降のアドレスを使用するにはシリアルコミュニケーションユニットが次の要件を満たす必要があります。

シリアルNo.の上5桁が 09043 以降

機能バージョンが B 以降

- *3 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] 
 [クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *4 拡張リンクレジスタはCPUユニットのシリアルNo.の上5桁が"09042"以降の場合のみ使用できます。
- *5 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の 3 桁はインテリジェントモジュールの開始 I/O 番号を指定します。
- *6 ファイルレジスタの範囲は使用するメモリカードによって異なります。
- *7 デバイス名の先頭にブロック No. を設定します。これは GP-PRO/PB III for Windows との互換用のデバイス表記です。新規でデバイスを指定する場合は、ファイルレジスタ (連番) の使用を推奨します。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6.3 MELSEC L シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
入カリレー	X0000-X1FFF	X0000-X1FF0	[L/H]	...0
出カリレー	Y0000-Y1FFF	Y0000-Y1FF0		...0
内部リレー	M00000-M61439	M00000-M61424		±16
特殊リレー	SM0000-SM2047	SM0000-SM2032		±16
保持リレー	L00000-L32767	L00000-L32752		±16
アナンシェータ	F00000-F32767	F00000-F32752		±16
エッジリレー	V00000-V32767	V00000-V32752		±16
ステップリレー	S0000-S8191	S0000-S8176		±16
リンクリレー	B0000-BEFFF	B0000-BEFFF0		...0
特殊リンクリレー	SB0000 - SB7FFF	SB0000 - SB7FFF0		...0
タイマ (接点)	TS00000-TS25471	—		
タイマ (コイル)	TC00000-TC25471	—		
積算タイマ (接点)	SS00000-SS25471	—		
積算タイマ (コイル)	SC00000-SC25471	—		
カウンタ (接点)	CS00000-CS25471	—		
カウンタ (コイル)	CC00000-CC25471	—		
タイマ (現在値)	—	TN00000-TN25471		
積算タイマ (現在値)	—	SN00000-SN25471		
カウンタ (現在値)	—	CN00000-CN25471		
データレジスタ	—	D000000-D421887		Bit F ^{*1}
特殊レジスタ	—	SD0000-SD2047		Bit F ^{*1}
リンクレジスタ	—	W00000-W66FFF		Bit F ^{*1}
特殊リンクレジスタ	—	SW0000-SW6FFF		Bit F ^{*1}
ユニットアクセスデバイス	—	U000-G00000 - U1FF-G65535		Bit F ^{*1 *2}
ファイルレジスタ (通常)	—	R00000-R32767		Bit F ^{*1 *3}

次のページに続きます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考	
ファイルレジスタ (連番)	—	ZR000000-ZR393215	[L/H]	 *1 *3	
ファイルレジスタ (0R ~ 11R)*4	—	0R0000-0R32767			 *1 *3
	—	1R0000-1R32767			
	—	2R0000-2R32767			
	:	:			
	—	10R0000-10R32767			
	—	11R0000-11R32767			

*1 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。

[クリアする] 

[クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*2 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の3桁はインテリジェントモジュールの開始I/O番号を指定します。

*3 ファイルレジスタの範囲は使用するメモ리카ードによって異なります。

*4 デバイス名の先頭にブロック No. を設定します。これは GP-PRO/PB III for Windows との互換用のデバイス表記です。新規でデバイスを指定する場合は、ファイルレジスタ (連番) の使用を推奨します。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6.4 MELSEC iQ-R シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
入力リレー	X0000 - X1FFF	X0000 - X1FF0	[L/H]	***0
出力リレー	Y0000 - Y1FFF	Y0000 - Y1FF0		***0
内部リレー	M00000 - M61439	M00000 - M61424		÷16
特殊リレー	SM0000 - SM2047	SM0000 - SM2032		÷16
保持リレー	L00000 - L32767	L000000 - L32752		÷16
アナンシェータ	F00000 - F32767	F00000 - F32752		÷16
エッジリレー	V00000 - V32767	V00000 - V32752		÷16
リンクリレー	B0000 - BEFFF	B0000 - BEFF0		***0
特殊リンクリレー	SB0000 - SB7FFF	SB0000 - SB7FF0		***0
タイマ (接点)	TS00000 - TS32767	—		
タイマ (コイル)	TC00000 - TC32767	—		
積算タイマ (接点)	SS00000 - SS32767	—		
積算タイマ (コイル)	SC00000 - SC32767	—		
カウンタ (接点)	CS00000 - CS32767	—		
カウンタ (コイル)	CC00000 - CC32767	—		
タイマ (現在値)	—	TN00000 - TN32767		
積算タイマ (現在値)	—	SN00000 - SN32767		
カウンタ (現在値)	—	CN00000 - CN32767		
ロングカウンタ (現在値)	—	L_CN0000000 - L_CN4761215		
データレジスタ	—	D0000000 - D0065535		Bit F ^{*1}
特殊レジスタ	—	SD0000 - SD2047	Bit F ^{*1}	
リンクレジスタ	—	W000000 - W00FFFF	Bit F ^{*1}	
特殊リンクレジスタ	—	SW0000 - SW7FFF	Bit F ^{*1}	
ユニットアクセスデバイス	—	U000-G000000000 - U1FF- G999999999	Bit F ^{*1 *2}	
ファイルレジスタ	—	R00000 - R32767	Bit F ^{*1}	
ファイルレジスタ (連番)	—	ZR0000000 - ZR4849663	Bit F ^{*1}	
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	—	0R00000 - 0R32767	Bit F ^{*1}	
	—	1R00000 - 1R32767	Bit F ^{*1}	
	—	2R00000 - 2R32767	Bit F ^{*1}	
	:	:		
	—	30R00000 - 30R32767	Bit F ^{*1}	
	—	31R00000 - 31R26623	Bit F ^{*1}	

- *1 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
- [クリアする] 
- [クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *2 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の3桁はインテリジェントモジュールの開始I/O番号を指定します。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

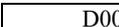
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6.5 MELSEC iQ-F シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
入力リレー	X0000 - X1777	X0000 - X1760	[L/H]	
出力リレー	Y0000 - Y1777	Y0000 - Y1760		
内部リレー	M00000 - M32767	M00000 - M32752		
特殊リレー	SM0000 - SM9999	SM0000 - SM9984		
保持リレー	L00000 - L32767	L000000 - L32752		
アナンシェータ	F00000 - F32767	F00000 - F32752		
ステップリレー	S0000 - S4095	S0000 - S4080		
リンクリレー	B0000 - B7FFF	B0000 - B7FF0		
特殊リンクリレー	SB0000 - SB7FFF	SB0000 - SB7FF0		
タイマ (接点)	TS0000 - TS1023	—		
タイマ (コイル)	TC0000 - TC1023	—		
積算タイマ (接点)	SS0000 - SS1023	—		
積算タイマ (コイル)	SC0000 - SC1023	—		
カウンタ (接点)	CS0000 - CS1023	—		
カウンタ (コイル)	CC0000 - CC1023	—		
ロングカウンタ (接点) ^{*1}	L_CS0000 - L_CS1023	—		
ロングカウンタ (コイル) ^{*1}	L_CC0000 - L_CC1023	—		
タイマ (現在値)	—	TN0000 - TN1023		
積算タイマ (現在値)	—	SN0000 - SN1023		
カウンタ (現在値)	—	CN0000 - CN1023		
ロングカウンタ (現在値) ^{*1}	—	L_CN0000 - L_CN1023	 *2 *3	
データレジスタ	—	 D0000 - D7999	 *3	
特殊レジスタ	—	SD00000 - SD11999	 *3	
リンクレジスタ	—	W0000 - W7FFF	 *3	
特殊リンクレジスタ	—	SW0000 - SW7FFF	 *3	
ユニットアクセスデバイス	—	U000-G00000 - UIFF-G65535	 *2 *3	
ファイルレジスタ	—	R00000 - R32767	 *3	

*1 本デバイスは形式が「QnA 互換 4C フレーム : 形式 5」の場合のみ使用できます。

*2 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の3桁はインテリジェントモジュールの開始I/O番号を指定します。

- *3 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。

[クリアする] 

[クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

7.1 MELSEC Q/QnA シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0080	ワードアドレス ÷0x10 の値
出力リレー	Y	0081	ワードアドレス ÷0x10 の値
内部リレー	M	0082	ワードアドレス ÷16 の値
特殊リレー	SM	0083	ワードアドレス ÷16 の値
保持リレー	L	0084	ワードアドレス ÷16 の値
アナンシェータ	F	0085	ワードアドレス ÷16 の値
エッジリレー	V	0086	ワードアドレス ÷16 の値
ステップリレー	S	0087	ワードアドレス ÷16 の値
リンクリレー	B	0088	ワードアドレス ÷0x10 の値
特殊リンクリレー	SB	0089	ワードアドレス ÷0x10 の値
タイマ (現在値)	TN	0060	ワードアドレス
積算タイマ (現在値)	SN	0062	ワードアドレス
カウンタ (現在値)	CN	0061	ワードアドレス
データレジスタ / 拡張データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
特殊レジスタ	SD	0001	ワードアドレス
リンクレジスタ / 拡張リンクレジスタ	W	0002	ワードアドレス
特殊リンクレジスタ	SW	0003	ワードアドレス
ユニットアクセスデバイス	U000-G ~ U1FF-G	0076 ~ 1F76	ワードアドレス*1
ファイルレジスタ (通常)	R	000F	ワードアドレス
ファイルレジスタ (連番)	ZR	000E	ワードアドレス
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	0R	0010	ワードアドレス
	1R	0011	ワードアドレス
	2R	0012	ワードアドレス
	:	:	:
	30R	002E	ワードアドレス
	31R	002F	ワードアドレス

*1 デバイス名のコードはデバイスコードとアドレス部の 28 ～ 31 ビットめの値で指定されます。たとえばU1FF-Gの場合、デバイスコードを「0x1F76」、アドレス部の28 ～ 31 ビットめを「F」に設定します。

7.2 MELSEC L シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0080	ワードアドレス ÷0x10 の値
出力リレー	Y	0081	ワードアドレス ÷0x10 の値
内部リレー	M	0082	ワードアドレス ÷16 の値
特殊リレー	SM	0083	ワードアドレス ÷16 の値
保持リレー	L	0084	ワードアドレス ÷16 の値
アナンシェータ	F	0085	ワードアドレス ÷16 の値
エッジリレー	V	0086	ワードアドレス ÷16 の値
ステップリレー	S	0087	ワードアドレス ÷16 の値
リンクリレー	B	0088	ワードアドレス ÷0x10 の値
特殊リンクリレー	SB	0089	ワードアドレス ÷0x10 の値
タイマ (現在値)	TN	0060	ワードアドレス
積算タイマ (現在値)	SN	0062	ワードアドレス
カウンタ (現在値)	CN	0061	ワードアドレス
データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
特殊レジスタ	SD	0001	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0002	ワードアドレス
特殊リンクレジスタ	SW	0003	ワードアドレス
ユニットアクセスデバイス	U000-G ～ U1FF-G	0076 ～ 1F76	ワードアドレス*1
ファイルレジスタ (通常)	R	000F	ワードアドレス
ファイルレジスタ (連番)	ZR	000E	ワードアドレス
ファイルレジスタ (0R ～ 11R)	0R	0010	ワードアドレス
	1R	0011	ワードアドレス
	2R	0012	ワードアドレス
	:	:	:
	10R	001A	ワードアドレス
	11R	001B	ワードアドレス

*1 デバイス名のコードはデバイスコードとアドレス部の 28 ～ 31 ビットめの値で指定されます。たとえばU1FF-Gの場合、デバイスコードを「0x1F76」、アドレス部の28 ～ 31 ビットめを「F」に設定します。

7.3 MELSEC iQ-R シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0080	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/X	0180	
	2/X	0280	
	3/X	0380	
	4/X	0480	
出力リレー	Y	0081	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/Y	0181	
	2/Y	0281	
	3/Y	0381	
	4/Y	0481	
内部リレー	M	0082	ワードアドレス ÷16 の値
	1/M	0182	
	2/M	0282	
	3/M	0382	
	4/M	0482	
特殊リレー	SM	0083	ワードアドレス ÷16 の値
	1/SM	0183	
	2/SM	0283	
	3/SM	0383	
	4/SM	0483	
保持リレー	L	0084	ワードアドレス ÷16 の値
	1/L	0184	
	2/L	0284	
	3/L	0384	
	4/L	0484	
アナンシェータ	F	0085	ワードアドレス ÷16 の値
	1/F	0185	
	2/F	0285	
	3/F	0385	
	4/F	0485	

次のページに続きます。

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
エッジリレー	V	0086	ワードアドレス ÷16 の値
	1/V	0186	
	2/V	0286	
	3/V	0386	
	4/V	0486	
リンクリレー	B	0088	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/B	0188	
	2/B	0288	
	3/B	0388	
	4/B	0488	
特殊リンクリレー	SB	0089	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/SB	0189	
	2/SB	0289	
	3/SB	0389	
	4/SB	0489	
タイマ (現在値)	TN	0060	ワードアドレス
	1/TN	0160	
	2/TN	0260	
	3/TN	0360	
	4/TN	0460	
積算タイマ (現在値)	SN	0062	ワードアドレス
	1/SN	0162	
	2/SN	0262	
	3/SN	0362	
	4/SN	0462	
カウンタ (現在値)	CN	0061	ワードアドレス
	1/CN	0161	
	2/CN	0261	
	3/CN	0361	
	4/CN	0461	
ロングカウンタ (現在値)	L_CN	0x0065	ワードアドレス
	1/L_CN	0x0165	
	2/L_CN	0x0265	
	3/L_CN	0x0365	
	4/L_CN	0x0465	

次のページに続きます。

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
	1/D	0100	
	2/D	0200	
	3/D	0300	
	4/D	0400	
特殊レジスタ	SD	0001	ワードアドレス
	1/SD	0101	
	2/SD	0201	
	3/SD	0301	
	4/SD	0401	
リンクレジスタ	W	0002	ワードアドレス
	1/W	0102	
	2/W	0202	
	3/W	0302	
	4/W	0402	
特殊リンクレジスタ	SW	0003	ワードアドレス
	1/SW	0103	
	2/SW	0203	
	3/SW	0303	
	4/SW	0403	
ユニットアクセスデバイス	U000-G ~ U1FF-G	0076 ~ 1F76	ワードアドレス*1
ファイルレジスタ	R	000F	ワードアドレス
	1/R	010F	
	2/R	020F	
	3/R	030F	
	4/R	040F	
ファイルレジスタ (連番)	ZR	000E	ワードアドレス
	1/ZR	010E	
	2/ZR	020E	
	3/ZR	030E	
	4/ZR	040E	

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	0R	0010	ワードアドレス
	1/0R	0110	
	2/0R	0210	
	3/0R	0310	
	4/0R	0410	
	1R	0011	ワードアドレス
	1/1R	0111	
	2/1R	0211	
	3/1R	0311	
	4/1R	0411	

次のページに続きます。

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード	
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	2R	0012	ワードアドレス	
	1/2R	0112		
	2/2R	0212		
	3/2R	0312		
	4/2R	0412		
	3R	0013	ワードアドレス	
	1/3R	0113		
	2/3R	0213		
	3/3R	0313		
	4/3R	0413		
	4R	0014	ワードアドレス	
	1/4R	0114		
	2/4R	0214		
	3/4R	0314		
	4/4R	0414		
	:	:		
	27R	002B	ワードアドレス	
	1/27R	012B		
	2/27R	022B		
	3/27R	032B		
	4/27R	042B		
	28R	002C	ワードアドレス	
	1/28R	012C		
	2/28R	022C		
	3/28R	032C		
	4/28R	042C		
	29R	002D	ワードアドレス	
	1/29R	012D		
	2/29R	022D		
	3/29R	032D		
	4/29R	042D		

次のページに続きます。

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	30R	002E	ワードアドレス
	1/30R	012E	
	2/30R	022E	
	3/30R	032E	
	4/30R	042E	
	31R	002F	ワードアドレス
	1/31R	012F	
	2/31R	022F	
	3/31R	032F	
	4/31R	042F	

*1 デバイス名のコードはデバイスコードとアドレス部の 28 ~ 31 ビットめの値で指定されます。たとえば U1FF-G の場合、デバイスコードを「0x1F76」、アドレス部の 28 ~ 31 ビットめを「F」に設定します。

7.4 MELSEC iQ-F シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0080	ワードアドレス ÷0x10 の値
出力リレー	Y	0081	ワードアドレス ÷0x10 の値
内部リレー	M	0082	ワードアドレス ÷16 の値
特殊リレー	SM	0083	ワードアドレス ÷16 の値
保持リレー	L	0084	ワードアドレス ÷16 の値
アナンシェータ	F	0085	ワードアドレス ÷16 の値
ステップリレー	S	0087	ワードアドレス ÷16 の値
リンクリレー	B	0088	ワードアドレス ÷0x10 の値
特殊リンクリレー	SB	0089	ワードアドレス ÷0x10 の値
タイマ (現在値)	TN	0060	ワードアドレス
積算タイマ (現在値)	SN	0062	ワードアドレス
カウンタ (現在値)	CN	0061	ワードアドレス
ロングカウンタ (接点)	L_CS	0x00EA	ワードアドレス
ロングカウンタ (コイル)	L_CC	0x00EB	ワードアドレス
ロングカウンタ (現在値)	L_CN	0x0065	ワードアドレス
データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
特殊レジスタ	SD	0001	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0002	ワードアドレス
特殊リンクレジスタ	SW	0003	ワードアドレス
ユニットアクセスデバイス	U000-G ~ U1FF-G	0076 ~ 1F76	ワードアドレス*1
ファイルレジスタ	R	000F	ワードアドレス

*1 デバイス名のコードはデバイスコードとアドレス部の 28 ~ 31 ビットめの値で指定されます。たとえば U1FF-G の場合、デバイスコードを「0x1F76」、アドレス部の 28 ~ 31 ビットめを「F」に設定します。

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号：機器名：エラーメッセージ（エラー発生箇所）」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]）
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	<p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 デバイスアドレスは「アドレス：デバイスアドレス」のように表示されます。 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました（受信エラーコード：2[02H]）」

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守 / トラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。